

障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
えん下障害者および高齢者に 向くゲル状食品の機能特性の 研究 えん下食造影響を用いた ゲル状食品の動的粘弾性と周波 数の関係	Research on functional property of gelled food which is suited for deglutition disorder person and old people -- relation between dynamic viscoelasticity and frequency of gelled food for deglutition food imaging	渡瀬峰男, 西川剛史 (静岡大 農), 金 谷節子, 藤島一郎 (聖隷三方原病院)	日本食品科学工学会大 会講演集 JST資料番 号: Y0057A	Vol. 45th, Page. 216 (1998) 写図表参: 参1	えん下障害者を対象としたビデオレントゲン透視検査(えん下造影)用のゲル状えん下食を作成を目的とし、えん下食ゼリー及びこれらにパルチンを添加したゼリー等5種の試料ゼリーについて、動的粘弾性と周波数の関係を検討した。その結果、グレーブゼリー、カルトラゼ、ゼリー、パルチンゼリー、パルチンゼリーは周波数とともに増大したが、値は測定温度(10-35℃)に対して著しく異なつた。
えん下障害者および高齢者に 向くゲル状食品の機能特性の 研究 ゲル状食品の動的粘弾 性に与える分子重量および刺激 基等の影響	Research on functional property of gelled food which is suited for deglutition disorder person and old people -- effect of molecular weight and side chain group on dynamic viscoelasticity of deglutition food	渡瀬峰男, 遠藤隆彦 (静岡大 農)	日本食品科学工学会大 会講演集 JST資料番 号: Y0057A	Vol. 45th, Page. 216 (1998) 写図表参: 参2	えん下食に向くゲル状食品のレオロジー的及び熱的性質を基準にして、ゲル形成能に影響を与える可能性のある分子重量、側鎖基、3,6-アンピドロロ-D-ガラクトース等について検討した。えん下時の温度がほぼ60℃以下であることを考慮し、測定温度は60℃以下とした。
えん下障害者および高齢者に 向くゲル状食品の機能特性の 研究 ゲル状食品のえん下筋発 とえん下反射の関係	Research on functional property of gelled food which is suited for deglutition disorder person and old people -- relation between deglutition induction and deglutition reflection of the Large bowel cancer and ulcerative colitis. Ulcerative colitis - life guidance.	渡瀬峰男, 山崎佐和子 (静岡大 農), 金谷節子, 藤島一郎 (聖隷三方原病 院)	日本食品科学工学会大 会講演集 JST資料番 号: Y0057A	Vol. 45th, Page. 215 (1998) 写図表参: 参2	えん下障害者に向くゲル状食品開発を目的として、えん下開始食であるゼラチンゼリーを用いてレオロジー的研究を行い、えん下筋発とえん下反射の関係を探した。えん下筋発時の温度がえん下反射に与える影響を考慮し、測定温度を変えて動的粘弾性率、動的損失、動的粘弾性の関係を研究した。
大腸がん・潰瘍性大腸炎・潰 瘍性大腸炎 生活指導	Combination care of a patient with Joseph's disease local community.	竹島史直, 牧山和也 (長崎大 医)	臨床と研究 JST資料番 号: Z0376B ISSN: 0021- 4965	Vol. 75, No. 8, Page. 1772-1775 (1998.06) 写図 表参: 表1, 参14	標題疾患(UC)の治療の基本は薬物療法であり、食事療法や栄養療法の病態そのものへの改善効果は少ない。薬剤はスルファサラジン、メサランジン、副腎皮質ホルモン、免疫抑制剤が用いられる。長期管理はボイ ントはレボに上手に自己管理ができるかである。再燃誘発因子として、精神的、肉体的ストレス、ウイルス感 染、非ステロイド性抗炎症鎮痛剤、抗生物質などの薬剤が考えられる。合併症では尿路結石と大腸癌に注 意する。妊娠、授乳時の指導も必要である。社会保健では特定疾患医療費給付、障害年金、身体障害者手 続きの問題を抱え、在宅療養している神経難病患者(ジゼル病と診断された41歳、女性)に対し、きめ細かな 探検を実施する医療チーム援助体制として、医師、看護婦、管理栄養士、理学療法士に加え、保健所保 健婦と市役所保健婦・ホームヘルパーが参加した。各職種間および関係機関における情報の共有化が 必要不可欠であった。本症例では、患者宅のノート・FAXの活用、保健福祉サービス調整会議・症例検討会 脳神経外科領域の患者の慢性期の栄養管理に微量栄養の重要性が指摘されている。突然の頭痛、意識 障害が発症した82歳女性の症例報告である。CTスキャンからも腸下出血と診断した。栄養管理は当初、 中心静脈栄養であったが、経腸栄養を開始した。採血検査では血清中銅、鉄、亜鉛の濃度が著しく低かつ たため、微量栄養補助食品カキリコを1日1パック(10g)毎食時の経腸栄養に追加した。2か月後の採血では 血清銅、鉄、亜鉛の濃度は正常値を示した。免疫学的検査でも正常値を示した。以後、軽度のリハビリテ ーション時に経腸栄養の状態を、採食指導を行った脳性麻痺を主とする重度重複障害児45人について調査し た。経腸栄養の重症心身障害者ではMRIやCTの画像所見、採食えん下機能の評価、肺炎や難治性てん かんの有無を考慮して、経口的に食事摂取可能と判断し、できれば2歳までに採食指導を開始することが大 切である。
ジゼル病患者をめぐり地域で の連携	Successful treatment for general condition by giving Kakiriko, a mineral supply diet, for a patient with prolonged consciousness	勢力里美, 窪左千江, 植田久仁子, 山 田宏治 (山田医院), 川口洋子 (奈良県 庁), 市口和子 (奈良県内吉野保健所)	日本公衆衛生雑誌 JST 資料番号: G0950A ISSN: 0546-1766	Vol. 45, No. 6, Page. 572-577 (1998.06) 写図 表参: 表2, 参6	標準疾患(UC)の治療の基本は薬物療法であり、食事療法や栄養療法の病態そのものへの改善効果は少ない。薬剤はスルファサラジン、メサランジン、副腎皮質ホルモン、免疫抑制剤が用いられる。長期管理はボイ ントはレボに上手に自己管理ができるかである。再燃誘発因子として、精神的、肉体的ストレス、ウイルス感 染、非ステロイド性抗炎症鎮痛剤、抗生物質などの薬剤が考えられる。合併症では尿路結石と大腸癌に注 意する。妊娠、授乳時の指導も必要である。社会保健では特定疾患医療費給付、障害年金、身体障害者手 続きの問題を抱え、在宅療養している神経難病患者(ジゼル病と診断された41歳、女性)に対し、きめ細かな 探検を実施する医療チーム援助体制として、医師、看護婦、管理栄養士、理学療法士に加え、保健所保 健婦と市役所保健婦・ホームヘルパーが参加した。各職種間および関係機関における情報の共有化が 必要不可欠であった。本症例では、患者宅のノート・FAXの活用、保健福祉サービス調整会議・症例検討会 脳神経外科領域の患者の慢性期の栄養管理に微量栄養の重要性が指摘されている。突然の頭痛、意識 障害が発症した82歳女性の症例報告である。CTスキャンからも腸下出血と診断した。栄養管理は当初、 中心静脈栄養であったが、経腸栄養を開始した。採血検査では血清中銅、鉄、亜鉛の濃度が著しく低かつ たため、微量栄養補助食品カキリコを1日1パック(10g)毎食時の経腸栄養に追加した。2か月後の採血では 血清銅、鉄、亜鉛の濃度は正常値を示した。免疫学的検査でも正常値を示した。以後、軽度のリハビリテ ーション時に経腸栄養の状態を、採食指導を行った脳性麻痺を主とする重度重複障害児45人について調査し た。経腸栄養の重症心身障害者ではMRIやCTの画像所見、採食えん下機能の評価、肺炎や難治性てん かんの有無を考慮して、経口的に食事摂取可能と判断し、できれば2歳までに採食指導を開始することが大 切である。
微量栄養補助食品カキリコによ り全身状態の著しい改善を見た 遅延性意識障害者の一例	Research on systematization of early detection and care of child with developmental disorder. Examination of disorder of severity multiple disabled child mainly including cerebral palsy. Centering round infancy. (Ministry of Health and Clinic neuropathological examination of autonomic nerve and brain stem function of severe mental-physical handicap. (Tokyo Metropolitan Inst. for Neurosciences S)	葛なぎ博昭, 志村俊郎, 松本正博, 木 暮一成 (日本医大 多摩永山病院), 寺 本明 (日本医大)	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388- 127X	Page. 96-97 (1998) 写図表 参: 写図1, 参1	えん下障害者を対象としたビデオレントゲン透視検査(えん下造影)用のゲル状えん下食を作成を目的とし、えん下食ゼリー及びこれらにパルチンを添加したゼリー等5種の試料ゼリーについて、動的粘弾性と周波数の関係を検討した。その結果、グレーブゼリー、カルトラゼ、ゼリー、パルチンゼリー、パルチンゼリーは周波数とともに増大したが、値は測定温度(10-35℃)に対して著しく異なつた。
発達障害の早期発見とケアの 大系化に関する研究 脳性麻 痺を主とする重度重複障害児 の採食障害に対する採食指導 の検討 乳幼児期を中心に(厚 生省S)	Research on systematization of early detection and care of child with developmental disorder. Examination of disorder of severity multiple disabled child mainly including cerebral palsy. Centering round infancy. (Ministry of Health and Clinic neuropathological examination of autonomic nerve and brain stem function of severe mental-physical handicap. (Tokyo Metropolitan Inst. for Neurosciences S)	高嶋幸男, 落合幸勝, 小林博司, 赤塚 章 (東京都北療育医療セ)	ハイリス原の健全育成 のシステム化に関する研 究 平成9年度研究報告 書 JST資料番号: N19981291	Page. 34-36 (1998) 写図表 参: 写図2, 表1, 参2	えん下障害者を対象としたビデオレントゲン透視検査(えん下造影)用のゲル状えん下食を作成を目的とし、えん下食ゼリー及びこれらにパルチンを添加したゼリー等5種の試料ゼリーについて、動的粘弾性と周波数の関係を検討した。その結果、グレーブゼリー、カルトラゼ、ゼリー、パルチンゼリー、パルチンゼリーは周波数とともに増大したが、値は測定温度(10-35℃)に対して著しく異なつた。
重症心身障害の臨床神経学的 検査の臨床神経学的検査 の検討 (東京都神経科学総合研 究所S)	Clinic neuropathological examination of autonomic nerve and brain stem function of severe mental-physical handicap. (Tokyo Metropolitan Inst. for Neurosciences S)	玉川公子, 宮嶋智子, 小森穂子, 繁友 律子, 栗原栄二, 水野美彦, 小宮和彦, 小田雅也 (東京都神経病院), 林雅晴 (東京都神経科総研)	日本食品科学工学会大 会講演集 JST資料番 号: Y0057A	Page. 34-36 (1998) 写図表 参: 写図2, 表1, 参2	えん下障害者を対象としたビデオレントゲン透視検査(えん下造影)用のゲル状えん下食を作成を目的とし、えん下食ゼリー及びこれらにパルチンを添加したゼリー等5種の試料ゼリーについて、動的粘弾性と周波数の関係を検討した。その結果、グレーブゼリー、カルトラゼ、ゼリー、パルチンゼリー、パルチンゼリーは周波数とともに増大したが、値は測定温度(10-35℃)に対して著しく異なつた。

障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
256	発達の観点から見た療育指導の在り方に関する研究 肢体不自由養護学校における「医療的ケア」の実施状況の調査 (厚生省S)	Research on ideal way of nursing guidance from viewpoint of development. Field study of operational situation of "medical care" in crippled handicapped children's school. (Ministry)	北住映二 (心身障害児総合医療療育七)	ハリスケル児の健全育成のシステム化に関する研究 平成9年度研究報告書 JST資料番号: N19981291	Page.86-87 (1998) 写図表 参:表2	全国の肢体不自由養護学校の校章を対象に、医療的ケアの実施状況についてアンケート調査を行った。多数の肢体不自由養護学校において、多数の児童に対して医療的ケアが、看護婦以外のスタッフによって、重大な事故も生じることなく、実施されている実態が明らかになった。しかしながら、法的な問題の整理がなされず行政的な対応も不十分の中で、また、医療的ケアのバックアップも十分でない中で、問題点も多く指摘された。
257	医療ケアを必要とする小児の在宅ケア	Home care for children dependent on technological support.	篠木絵理 (北海道医療大 看護福祉)	北海道医療大看護福祉学部紀要 JST資料番号:L2095A ISSN:1340-4709	No.5, Page.83-88 (1998.05) 写図表参:表1, 参29	医療行為と医療ケアの定義、医療ケアを問題とする背景、医療ケアを必要とする小児の在宅ケア研究について概観した。CINAHLおよびMEDLINEデータベースから得られた約50件の文献の中から、重症心身障害児の在宅ケアと新児生児集中治療室退院児の在宅ケアに関する文献14件を採択し、著者の研究結果を加え、計26件を対象に検討した。その結果、医療ケアの種類として経管栄養、吸引、酸素投与、人工呼吸器など、医療ケアの内容が多岐にわたっており、ケアを必要とする時間は大きな幅があった。医療ケアを必要とする小児の在宅ケア研究の主な内容は、継続的効果向上を目的とした在宅ケア推進に関するものと、家族のストレスを軽減するための介入を提唱するアンケータ結果を基に、在宅生活を支援する上で必要と考えられるマンパワー必要数を算出した。算出に当たっては、新コーールドプラン(A)で打ち出されているマンパワーと比較、検討するために、西暦2000年時におけるマンパワー必要数を算出した。Aで明記されている職種ごとの比較においても、約6.7倍、今後の検討事項によってはおよそ10倍ものマンパワーが必要である。
258	高齢障害者の地域ハビリテーションサービスの見直し 在宅生活を支援する上でのマンパワー必要数 西暦2,000年時のサービス、職種別マンパワー (厚生省S)	Review of regional rehabilitation service for old handicapped. Necessary quantity of manpower in supporting their home lives. Service in A.D.2000 - Manpower classified by occupation. (Ministry of Welfare)	山本和哉、伊藤晴人、財津真人 (大東市役所)、森山雅志 (宮崎市総合福祉保健セ)	長寿科学総合研究 JST資料番号:J1099A	Vol.1996(7), Page.45-51 (1997.03) 写図表参:写図5, 参3	在宅ケア研究の主な内容は、継続的効果向上を目的とした在宅ケア推進に関するものと、家族のストレスを軽減するための介入を提唱するアンケータ結果を基に、在宅生活を支援する上で必要と考えられるマンパワー必要数を算出した。算出に当たっては、新コーールドプラン(A)で打ち出されているマンパワーと比較、検討するために、西暦2000年時におけるマンパワー必要数を算出した。Aで明記されている職種ごとの比較においても、約6.7倍、今後の検討事項によってはおよそ10倍ものマンパワーが必要である。
259	ソーシャルネットを活用して就労した多問題家族の事例	The Case of the Multi-Problem Family Who Utilized the Social Support Net Work to Gain Employment.	秋庭正己 (神奈川県総合ハビリセ)	職業リハビリテーション JST資料番号:L0978A ISSN:0915-0870	Vol.11, Page.30-32 (1998) 写図表参:写図1, 表1, 参3	福祉の相談援助の中の「処遇困難ケース」の中に「多問題家族」がある。「多問題家族」に見出される共通の特徴は、問題の慢性化と複雑さであり、家族や個人の社会的孤立、外部者に公的立場にあるものに対する不信や敬意、そしてこれらに基づいた援助しにくい状況である。面接後、清掃職に就労を開始した。何度も離職に結びつような危機があったが、家族支援に代わるソーシャルサポートネットワークができ、結果、目に見えざる援助を繰り返すことができた。
260	追跡調査と治療基準に関する研究 マターナルPKUの効果的予防法の検討 (厚生省S)	Follow-up study and research on treatment standard. Examination of effective prophylaxis of maternal PKU. (Ministry of Health and Welfare S)	黒田泰弘、伊藤道徳 (徳島大医)	効率的なマタスクリーニングの施策に関する研究 平成9年度研究報告書 JST資料番号: N19980942	Page.101-103 (1998) 写図表 参:写図2	追跡調査体制から外れた住所不明の高アミノ酸血症及びPKU女性患者(ヘリスケル女性)を見出すには、女児中學生あるいは知的障害児を出産した女性を対象としたPKUスクリーニングが有効であることが費用、低受検率が問題である。他の方法として、各自治体のスクリーニング検査機関、特殊ミルク使用状況調査を行っている母子愛育会、小児慢性特定疾患医療給付申請書を扱う各自治体の情報を活用する方法を考えた。
261	女性における摂食障害 代表的調査	Eating disorders in females: A representative survey. 原文標題: Essstörungen bei Frauen: Eine Repräsentativhebung.	著者名: KINZL J F, TRERFALT E, BIEBL W (Univ. Klinik fuer Psychiatrie, Innsbruck), TRAWEGER C (Univ. Innsbruck, Innsbruck)	資料名: Z Ernährungswiss JST資料番号: C0778B ISSN: 0044-264X CODEN: ZERNA	巻号ページ(発行年月日): Vol.37, No.1, Page.23-30 (1998.03) 写図表参:表2, 参28	チロル地方の女性に見られる馬鹿食い習慣、過食障害、過食神経症の罹患率について電話による調査を行った。女性1000人中3名は重度の神経性食飲不振であり15人は過食神経症、33人は過食障害であった。一方、多食症は全体重群の若年者も多く、過食障害者は全年齢層で体重過多又は肥満であった。この調査は、食事制限、ダイエット、過度の運動が摂食障害の原因になることを示した。
262	豊かな高齢化社会の創出(バ) ア・フリー型自動販売機の開発	Construction of Affluent Aging Society. The development of the barrier free type of the vending machine.	菅田幸夫 (大塚製薬)	開発工学 JST資料番号:L3382A	Vol.16, No.1, Page.35-41 (1997.02) 写図表参:写図3, 表3, 参8	標記販売機(BFVM)は大塚製薬(株)の開発によるもので、その開発のコンセプトを人にやさしい自販機とし、身障者も健常者も利用できるようにした。BFVMは従来の自販機と比較して、コイン投入口が低く設定され、投入口を皿状もしくは回転式にしている。押しボタンは低くか、二箇所を設定している。加えて、取り出し口、返却レバー、お釣取り出し口などに改善工夫がみられる。
263	重症心身障害者(若)のQOLと栄養および食事等に関する研究 重症心身障害者(若)における微量元素欠乏について (厚生省S)	Research on QOL, nutrition and meal of severely and multiply handicapped children (persons). Lack of trace element in severely and multiply handicapped children (persons). (Ministry of Health and Welfare S).	小倉英郎 (国立養老所東高知病院)、杉山みち子 (健康・栄養研)、小山秀夫 (国立医療・病院管理研)、城福直人 (国立養老所香川小児病院)、佐野のぞみ (国立養老所南愛媛病院)、幸田一也 (国立養老所南愛媛病院)、六田てる明 (国立養老所東徳島病院)、荒木久美子 (土佐希望の家)、山田剛太郎 (川崎医大川崎病院)	心身障害児(若)の医療研究に関する総合研究 平成8年度研究報告書 JST資料番号: N19972903	Page.189-206 (1997) 写図表 参:写図13, 表9, 参6	重症心身障害者(若)を鑑別採(0)群、経腸栄養剤長期単独使用(II)群に分類し、血清亜鉛、銅、セレン、マンガン測定した。欠乏例に対しては不足症の有無を検討した。その結果、血清亜鉛、マンガンは両群間に明らかな差を認めず、ほとんどの症例が正常範囲内であったが、血清銅、セレンは群間に比べて明らかに低下していた。血清銅が低値の症例11例中4例で好中球減少症を認め、また、血清セレンが低値のII群9例中7例で心電図、あるいは心エコーの異常を認めた。

障害者サービス領域における栄養に関する先行研究

No.	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
264	重症心身障害児(者)の医療体制・特に超重症児の定義と処遇に関する研究 いわゆる超重症障害児(超重症児)の判定とそ の課題に関する研究 (厚生省S)	Research on medical treatment system for severely and multiply handicapped children (persons), especially definition and treatment of children with extreme severe motor and intellectual disabilities. Research on decision of children with extreme severe motor and intellectual disabilities and its problems. (Ministry of Health and Welfare S).	松葉佐正 (志友会 芦北学園), 鈴木康之 (鶴風会 東京小児療育病院)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究 平成8年度研究報告 書 JST資料番号: N19972903	Page.174-178 (1997) 写図表 参: 写図5, 表1, 参2	熊本県内では人口186万人に対し42名の超重症児をレスピレーター装着の有無で分けると、装着していない小児にコーヒー機おけ吐と過緊張を高頻度で超重症児スコアが低下した症例を6例認め、うち2例は超重症児から離脱していた。この2例の症状改善には、気管切開とIVHD)がバー造設が有効であった。3名の超重症児に対するベントサイトでの全処置時間を測定した。合計98-167分、時間の経過に伴いほぼ直線的に累積時間が伸びた。
265	重症心身障害児(者)の医療体制・特に超重症児の定義と処遇に関する研究 重症児の超重症児化要因の検討 (厚生省S)	Research on medical treatment system for severely and multiply handicapped children (persons), especially definition and treatment of children with extreme severe motor and intellectual disabilities. Examination on factor of change from severely handicapped children to the children with extreme severe motor and intellectual disabilities. (Ministry of Health and Welfare S).	柴田瑠美子 (国立療養所南福岡病院), 鈴木康之 (鶴風会 東京小児療育病院)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究 平成8年度研究報告 書 JST資料番号: N19972903	Page.171-173 (1997) 写図表 参: 表1, 参3	重症児のうち、療養中に合併症に伴い超重症児化した16例の重症化要因を検討した。基礎疾患は、脳性麻痺9例、髄膜炎3例などであった。濃厚な介護に関連する長期人工管理は3例、気管切開児は13例、中心静脈栄養は5例であった。入所後、超重症児化する症例は、神経学的重症度に加え、気道閉塞、消化管機能障害を有する場合がほとんどであった。寝たきり児の気道閉塞、せん息合併例での発作予防、かくはん対策および胃食道逆流症例での積極的な消化器対策が必要と考えた。
266	重症心身障害児(者)の医療体制・特に超重症児の定義と処遇に関する研究 (厚生省S)	Research on medical treatment system for severely and multiply handicapped children (persons), especially definition and treatment of children with extreme severe motor and intellectual disabilities. (Ministry of Health and Welfare S).	鈴木康之 (鶴風会 東京小児療育病院), 柴田留美子 (国立療養所南福岡病院), 中野千鶴子 (国立療養所鈴鹿病院), 松葉佐正 (志友会 芦北学園), 山田美智子 (神奈川県 とも医療セ)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究 平成8年度研究報告 書 JST資料番号: N19972903	Page.165-170 (1997) 写図表 参: 表11	超重症障害児(A)の概念に対する評価や判定についての見解を調査した。その結果、大筋で評価基準が受け入れられているものと考えた。Aの評価は、医師もしくは看護婦が行っていた。また、Aは症状が6か月以上続くことを条件とし、坐位までの運動制限のあることを基本としているのに、この2点の制限については全く配慮されていなかった。栄養必要量では、極度の低カロリーであり、蛋白質などの必要栄養素を考えると、現在適切な流動食は存在しないと考えた。
267	重症心身障害児(者)の医療・看護の質的向上に関する研究 重症心身障害児(者)施設における看護および研修・教育システムの実態 (厚生省S)	Research on quality improvement of medical treatment and nursing for severely and multiply handicapped children (persons). Actual condition of nursing and research study and instruction system in severely and multiply handicapped children (persons) facility. (Ministry of Health and Welfare S).	西間三豊, 米城和美 (国立療養所南福岡病院), 町田志藤子 (重症心身障害児施設久山療育園)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究 平成8年度研究報告 書 JST資料番号: N19972903	Page.159-164 (1997) 写図表 参: 表8	5つの公法人立重症心身障害児(者)施設と4つの国立療養所重症心身障害児(者)病棟に入所している児(者)(A)の実態調査を行った。Aの処遇の現状、看護および研修・教育システムの実態などを調査した結果、処遇および看護の現状には大きな差を認めなかった。しかし、研修・教育システムは較差があり公法人立と国立療養所の違い、さらに公法人立5施設間の差が大きかった。

障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

(34/48)

268	和文課題	英文課題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
	重症重複障害児・者のライフサイクル・訓練法及び体系に関する研究 坐位保持を獲得できた急性脳炎後遺症のケースについて 車椅子を利用して日常坐位を目的とした理学療法(厚生省S)	Research on life cycle of severity multiple disabled children and persons, training method and system. Cases of sequela of acute encephalitis with acquisition of sitting position. Physiotherapy as purpose of daily sitting position using wheelchairs. (The Ministry of Health and Welfare S).	船谷公明 (神奈川県総合リハビリ事業団), 落合幸勝, 高橋明子, 山川邦子, 赤塚章 (東京都北療育医療七)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究 平成8年度研究報告書 JST資料番号: N19972903	Page.111-112 (1997) 写図表 参: 参3	急性脳炎後遺症で寝たきりになり、胸部、上下肢特に近位関節拘縮に伴う坐位保持能力の低下を推測した13歳男児症例を報告した。脊柱が板状で大きくなればいかなる伸展も強く、全身伸展ハダンをとることが多いため、坐位をとることで、下肢の筋緊張は減少し、全身の伸展を抑制できた。さらに、胸部の可動性を維持できた。また車椅子の改善により骨盤を安定させて、全身の緊張を抑制することができた。
269	高齢心身障害者の骨粗しょう症の対策に関する研究 重症心身障害者における卵巣機能不全と骨密度 (厚生省S)	Research on countermeasures for osteoporosis of old psychosomatic disabled persons. Ovarian dysfunction and bone density in severe psychosomatic disabled persons. (The Ministry of Health and Welfare S).	水沼英樹 (群馬大 医), 田島しゅう作 (心身障害者福祉協)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究 平成8年度研究報告書 JST資料番号: N19972903	Page.87-88 (1997) 写図表 参: 参4	心身障害者で入寮中の75例について調査票に基づき身体所見、栄養状況、身体活動状況、性機能、その他を調査した。また、標題研究方法を記述した。女性における身体活動と卵巣機能は骨量維持上、2大因子として極めて重要な意味を持っている。心身障害者では身体活動の低下の面ですべてに骨代謝のリスクを持っており、これに卵巣機能の低下が加わればさらに骨粗しょう症のリスクが高まるものと考えた。
270	広島県保健医療計画 地域での連携が生み出された保健医療 (広島県S)	Medical treatment and health plan of Hiroshima Prefect. Opened medical treatment for health created by cooperation of inhabitants. ( Hiroshima Prefect. S).	広島県庁	広島県保健医療計画 地域での連携が生み出す開かれた保健医療 平成9年 JST資料番号: N19972946	Page.138P (1997)	標題計画を以下の通り策定した。1)保健医療サービスの充実 a)保健づくりと栄養対策 b)ライフステージ等に応じた健康管理 (母子保健医療、学校、産業保健、中高年齢者・障害者・原簿被爆者・毒ガス障害者・保健医療) c)リハビリテーションの充実 d)保健医療サービスの提供体制の充実 e)施設 b)体系的なサービスの実施 f)提供体制の充実 g)施設間の連携、保健施設間及び保健施設と医師の連携 h)救急・災害医療対策 d)へき地医療対策 e)各種疾病対策(がん、脳卒中、高齢、エイズ、その他感染症、精神保健福祉、難病、臓器移植) i)薬事対策(医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保、適性使用、医療用血液の確保) j)保健医療従事者の確保 k)保健医療推進体制の充実。[1997.2]
271	重症心身障害児(者)の医療・看護の質的向上に関する研究 重症心身障害児(者)の医療スコアについての検討 (厚生省S)	Research on qualitative improvement of medical care and nursing of severely multiple handicapped children (persons). Study on medical care scores of severely multiple handicapped children (persons). (The Ministry of Health and Welfare S).	西岡三馨, 田中能文 (国立療養所南福岡病院), 吉野邦夫 (国立療養所西鳥取病院), 宮野前健 (国立療養所南京都病院)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究 平成8年度研究報告書 JST資料番号: N19972903	Page.156-158 (1997) 写図表 参: 参2	重症心身障害児(者)の病態生理は複雑であり、一つの評価基準(A)のみで実態を反映することは困難である。そこで、病態生理を中心とした試験1および医療度を中心とした試験2の2つのA試験を作成した。試験1は、重症心身障害児(者)と一定の障害度で規定された患児(者)を、主に病態生理の視点より、個々の重症度を把握することを目的に作成した。試験2は、個別症例の医療必要度を重視し、他のスコアで軽度とされた者もヒックアップして治療することを目標において作成した。
272	重症心身障害児(者)の医療・看護の質的向上に関する研究 (厚生省S)	Research on qualitative improvement of medical care and nursing of severely multiple handicapped children (persons). (The Ministry of Health and Welfare S).	西岡三馨, 田中能文, 米城和美 (国立療養所南福岡病院)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究 平成8年度研究報告書 JST資料番号: N19972903	Page.147-149 (1997) 写図表 参: 参1	日本科学技術情報センターネットワークを利用して、重症心身障害児、重症重複障害児、重症児などをキーワードにして1992年1月-1996年8月の文献検索を行った。326文献を検出し、そのうち医療分野は178文献、看護分野は99文献であった。医療分野では特に超重症児、動・重症児、在宅医療、在宅医療に関して、看護分野では全般にわたって文献が少なく、また質の向上の観点で大きな問題と考えた。
273	透析患者の合併症とその対策 第8章 低栄養	Complications of dialysis patients and their countermeasure. Chapter 8. Undernutrition.	原田季司 (長崎大 医 病院)	透析患者の合併症とその対策 JST資料番号: L3257A	No. 7, Page.69-77 (1997.03) 写図表 参: 写図3, 表5, 参13	透析患者の20-40%は低栄養状態にあると考えられている。特に糖尿病性腎症由来の透析患者に栄養障害が多い。糖尿病患者の栄養管理、特に低栄養とその対策について解説した。糖尿病の場合には、栄養障害患者には、エネルギーおよび蛋白質の摂取量低下の要因が大きいが、栄養状態を表す指標には、栄養摂取量、身体計測、生化学検査、免疫学的検査がある。エネルギー摂取量は、透析患者で30-35kcal/kg/日、CAPD患者で29-34kcal/kg/日である。蛋白質摂取量は、透析患者で1.0-1.2g/kg/日、CAPD患者で1.1-1.3g/kg/日である。栄養管理が治療中で大変重要な位置をしめる。
274	そしゃく・えん下機能の低下した人に向く食品の開発 (第1報) そしゃく・えん下における食品物性の変化とその挙動の解析	Study on Development of The Food for Dysphagia. (I). Analyze Food Flow in Swallowing by The Videofluoroscopic Study.	手塚雅子, 渡瀬隆也, 土肥慎吾 (静岡県静岡工技七), 藤島一郎 (聖隷三方原病院)	静岡県静岡工業技術センター研究報告 JST資料番号: G0604A ISSN: 0916-6572 CODEN: SSSHEX	No.42, Page.25-30 (1997.09) 写図表 参: 写図8	高齢者やえん下障害者、そしてしゃく・えん下しにくい食品開発を目的に、ビデオレントゲン造影の情報を動画面としてパソコンに取り込み、静止画データとして解析するシステムを開発した。器官の動き、誤えんの様子、喉頭残留の場所等が解析可能となり、えん下障害者のリハビリ前後の改善された喉頭の動きが数値化された。英字ゼリーやゼラチンゼリーを用いて食塊の変形及び骨椎に対する長径の入射角を調べ、えん下圧の測定から喉頭残留とえん下圧低下の相関が分かった。





	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
284	重度・重篤障害児(者)における医療療育の生涯システムに関する検討 重度心身障害児の老齢化、特に精神遅滞児における発達と老化合併症による身体発育および眼科的老化現象について(厚生省S)	Examination on the lifetime system of the medical treatment and nursing for the severely multiple-handicapped children (persons). Aging of the children with psychosomatic disorders, especially development and aging in the mentally retarded children. Effect of the complications on the somatic growth and the ophthalmological senile change. (Ministry of Health and Welfare S).	西野力男 (秩父学園)	心身障害児(者)の医療療育に関する総合的研究 平成7年度研究報告書 JST資料番号: N19971688	Page.288-292 (1996) 写図表 参: 写図10, 参2	過去10年間観察できた重度精神遅滞児76例を対象に、肥満とるい境の原因が、中枢神経障害の程度による影響か否かについて検討した。また、白内障や眼底の血管病変についても検討した。死亡例と肥満度とは明らかな関係を見いだせなかった。また眼科的後症にて、老齢ではないにも関わらず、白内障を3例、動脈硬化性病変を4例に認めた。
285	在宅ケアに必要な医療技術 5 在宅で必要となる栄養管理の技術 えん下障害児を中心に	Medical technology necessary for home care. 5. Technology of nutritional management required for home care. Mainly on patients of swallowing disturbance.	木佐俊郎, 井後雅之, 徳田佳生 (島根県中央病院)	J Clin Rehabil JST資料番号: L1820A ISSN: 0918-5259	Vol.6, No.7, Page.719-724 (1997.07) 写図表 参: 写図2, 表7, 参6	えん下障害児の在宅栄養管理について概説した。技術としての基本原理、方法としての共通性、対象疾患と適応・禁忌など、実際の手指・患者・家族への指導のポイント、在宅での留意点、えん下障害児の在宅ケアに役立つ保険制度、在宅ケアに不可欠の経口経管栄養が役立つという症例などを示した。口腔・咽頭嚥などの術後のえん下障害児の在宅ケアにおいては、四肢麻痺などの看護・介護上の問題を含めた全身状態への配慮も介護技術として欠かさない述べた。
286	摂食・えん下障害児への多面的アプローチ 摂食・えん下障害児への栄養学的アプローチ	Nutritional approach to the patients of swallowing disturbance.	金谷節子, 吉村文江, 佐藤アキ子, 藤島一郎 (聖隷三方原病院)	J Clin Rehabil JST資料番号: L1820A ISSN: 0918-5259	Vol.6, No.7, Page.660-666 (1997.07) 写図表 参: 写図6, 表7, 参4	摂食・えん下障害児にとって食べやすい食物の条件、誤えんや窒息を招きやすい危険な食品、増粘剤の種類と使い方、えん下食の調理ポイント、便利な栄養補助食品などについて概説した。えん下食を楽しく美味しいものとするためには香りのある調理を可能にする第三世代の増粘剤の開発やセンサーモニタリングが期待され、また、えん下食は室温や喫食温度の影響が大であり、品質管理とともに応用化学などとの協力がさらに望まれると述べた。
287	脳性麻痺児に関するinformed consent	Informed Consent to Cerebral Palsy.	江口寿栄夫 (吉備国際大 保健科学)	J Clin Rehabil JST資料番号: L1820A ISSN: 0918-5259	Vol.6, No.6, Page.574-577 (1997.06) 写図表 参: 写図3, 表1, 参1	脳性麻痺児の乳児期には、栄養摂取と移動能力をいかに重点的に高めるかの訓練が大切であり、幼児期には理学療法、作業療法、言語療法など、全人的発達を目指す療育が重要である。学齢期には更に患者の特性を活かした全人的発達への配慮が大切であると述べた。保護者と患児には、これらの経過を追いながら各時期の特性に応じたinformed consent(説明と同意)がリハビリテーション医によりなされるべきだと述べた。
288	文明と栄養 21世紀の健康づくりに栄養	Health and Nutrition for the Japanese in the 21 Century.	田中平三 (東京医歯大 難治疾患研), 吉池信男 (健康・栄養研)	JPPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Vol.19, No.4, Page.321-329 (1997.04) 写図表 参: 写図3, 表1, 参6	公衆栄養問題の変遷について、戦後を困難時代、復興時代、高度成長時代、低成長時代の4期間に分けて述べた。現状をトータルヘルス、アクティブヘルス、健康文化、QOL、ストレスの面から検討した。高齢者、在宅医療者、障害者等のための給食と経管栄養療法について、福祉栄養が大きな役割を占めるようになってきた。今後の課題を栄養所要量、食生活指針、国民栄養調査、栄養教育と指導、栄養士の役割の面から展望した。
289	寒天食の治療効果	Therapeutic effect of agar food.	小林文代, 山本文恵, 岡田美加, 滝藤昌枝, 関戸まや, 山下良子 (稲沢市民病院), 山下初美 (愛知文教女短大)	栄養管理の研究 JST資料番号: L2218A ISSN: 0915-8472	No.23, Page.222-226 (1997.02) 写図表 参: 写図5, 表1, 参6	脳血管障害者等の誤嚥による肺炎を予防するため、えん下困難者に対し寒天食を提供し良好な結果を得た。血清総蛋白が低い場合や、いそぎがある場合には、サンケンラクトを用い、モニタリングしながら栄養基準量の調整を行った。その結果、全患者に血清総蛋白の改善がみられ、整形外科患者等では食事形態アップの傾向が認められた。
290	亜鉛欠乏の指標としてのTTIBC Level of TTIBC, as a Marker of Zinc Deficiency.	Normocytic Anemia with Low Level of TTIBC, as a Marker of Zinc Deficiency.	西山宗六, 中村俊郎, 東明正, 松田一郎 (熊本大)	Biomed Res Trace Elem JST資料番号: L1046A ISSN: 0916-717X	Vol.7, No.3, Page.175-176 (1996.12) 写図表 参: 写図1, 参1	スポーツ貧血患者、心身障害者、未熟児のヘモグロビン、血清Fe及びZnを測定し、グルコン酸亜鉛またはそれとへモグロビン値を比較した。何れの場合も血清Zn量は血清Feとほぼ等しいと見られ、亜鉛剤、鉄剤投与によりヘモグロビン値は改善した。スポーツ貧血の発症にZn欠乏が特殊な形で関与しているのとは、Znは造血機能に深く関与しているものとした。
291	亜鉛欠乏性貧血の診断と治療	Diagnosis and treatment for zinc deficiency anemia.	西山宗六, 東明正, 松田一郎 (熊本大 産科)	医学のあゆみ JST資料番号: Z0649A ISSN: 0039-2359 CODEN: IGAYAY	Vol.179, No.6, Page.429-430 (1996.11.09) 写図表 参: 写図1, 表1, 参10	不飽和鉄結合能、総鉄結合能の上昇を伴わない小球性または正球形貧血の患者51名に、亜鉛または亜鉛と鉄の併用を行った結果、著名な貧血の改善がみられた。亜鉛は造血機構に深く関与しており、亜鉛欠乏性貧血が実際にひとつの疾患単位として存在することを示したものとと思われる。
292	Bardet-Biedl症候群:2家族の報告	The Bardet-Biedl Syndrome: A Report of Two Families.	WANG V, FONG M-T, CHANG T-H, YAN S-H (Cardinal Tien Hospital, Taipei, TWN)	Acta Med Biol JST資料番号: F0572A ISSN: 0567-7734 CODEN: AMBNA	Vol.44, No.3, Page.157-161 (1996.09) 写図表 参: 写図2, 表1, 参20	Bardet-Biedl症候群の特徵である視力障害、肥満、性器発育不全症、多指症及び精神薄弱を示す2家族の4人の患者について報告した。4人の患者に網膜シストローフによる視力障害があり、1人は低カリウム血症性腎臓機能不全であった。一つの家族は両親は近親結婚であった。他の家族には精神障害者がいたが、他にBardet-Biedl症候群の発症はなかった。Bardet-Biedl症候群の遺伝子は常染色体劣性遺伝であって、血族の中に見出される肥満、高血圧、腎臓病、精神薄弱に影響していることを示唆した。

障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
心身の障害等を有する乳幼児の栄養・食生活のあり方に関する研究 極低出生体重児における栄養必要量の設定に関する検討(厚生省S)	Research on ideal way of nutrition and food practice of babies and infants with failures in mind and body. Examination on setting of nutrition requirement for children of ultra low birth weight. (Ministry of Health and Welfare S).	坂橋家頭夫(昭和医大)	保健・医療・福祉にかかわる医療資源の有効利用に関する研究 平成7年度研究報告書 JST資料番号:N19962162	Page.183 (1996)	多数の極低出生体重児(1)に生存が可能となってきた現在、栄養管理は極めて重要であるにもかかわらず、何を指標に栄養管理を行えばよいか不明のままであった。そこで栄養必要量設定(II)について、全国主要NICUの意見を調査した結果、多くの施設(76.4%)がIIを求めていることが明らかとなった。今後はIIの栄養曲線を検討し、体重増加が見られない時期と見られるようになった時期の2つの時期に分けて、IIを検討するつもりである
発達的な観点から見た療育指導の在り方に関する研究 学童期以降の障害児の医療需要について(厚生省S)	Research on ideal way of nursing guidance viewed from developmental standpoint. Medical demand of disabled children after primary school age. (Ministry of Health and Welfare S).	富和清隆, 川崎寿, 大塚信行(大阪府総合医療センター)	保健・医療・福祉にかかわる医療資源の有効利用に関する研究 平成7年度研究報告書 JST資料番号:N19962162	Page.231-233 (1996) 写図表 参: 参3	大阪府立肢体不自由児童養護学校で行った医療的ケアに関わる実態調査では、経管栄養、吸引、吸入、導尿など医療的ケアを継続的に要する児は、小学部から高等部の1103名中83名(7.5%)であった。保護者、教師に対する予備アンケートでは、けいれん、呼吸、摂食に関する心配が多かった。入院重症障害児5名に関する検討では、医療機関、学校、地域保健機関の共同による継続的ケアの重要性が明らかとなった
心身の障害等を有する乳幼児の栄養・食生活のあり方に関する研究 心身の障害等を有する乳幼児の栄養評価の方法に関する検討(厚生省S)	Review on nutritional assessment methods for handicapped infants.	吉池信男(健康・栄養研)	保健・医療・福祉にかかわる医療資源の有効利用に関する研究 平成7年度研究報告書 JST資料番号:N19962162	Page.189-193 (1996) 写図表 参: 写図2, 表7, 参34	心身の障害等を有する乳幼児(1)の栄養・食生活の実態調査の基礎資料として、欧米の栄養疫学的研究結果を中心に文献的考察を行った。乳幼児における食事調査、エネルギー消費の測定(1)、身体計測による栄養評価方法については、米国の基礎的検討が十分でなく、日本でもより信頼性の高い疫学調査を実施するための基礎としての基礎的データの集積が必要である。Doubly labeled waterを用いた方法は、IIに対しては特に有用と考えた
心身の障害等を有する乳幼児の栄養・食生活のあり方に関する研究 栄養・食生活指導マニュアルの立案<成長・発育曲線を考慮した統一的マニュアルのあり方に関する研究>(厚生省S)	Research on ideal way of nutrition and food practice of babies and infants with failures in mind and body. Preparation of guide manual for nutrition and food practice considering growth and developmental curves> (Ministry of Health and Welfare S).	二見大介(女子栄養大)	保健・医療・福祉にかかわる医療資源の有効利用に関する研究 平成7年度研究報告書 JST資料番号:N19962162	Page.186-188 (1996)	「栄養・食生活指導マニュアル」の立案にあたって、低出生体重児(1)に對しどのような基準に基づき栄養・食生活の指導をしたらよいか情報を得るため(1)最近5年間の論文を収集して内容を整理し、(2)Iの予想される問題点を明らかにするため、実際に問題となっている事柄を保健所などに確認し、(3)調査研究対象児(出生体重1500-2500g)と地域(埼玉県戸市)の選定を検討した
心身の障害等を有する乳幼児の栄養・食生活のあり方に関する研究 低出生体重児の離乳の進行状況(厚生省S)	Research on ideal way of nutrition and food practice of babies and infants with failures in mind and body. Progress situation of weaning of low-birth-weight babies. (Ministry of Health and Welfare S).	水野博子(日本総合愛育研)	保健・医療・福祉にかかわる医療資源の有効利用に関する研究 平成7年度研究報告書 JST資料番号:N19962162	Page.184-185 (1996)	低出生体重児(1)の離乳指針の策定に当たり、出生体重1629±2328gの15名を対象に、出生後の発育状況や離乳の進行状況を観察した。離乳開始月齢は4か月5名、5か月8名、6か月1名、7か月1名、大方の者は改定「離乳の基本」に準じていたが、改定に際して行なわれた離乳期乳児の調査成績に比べ、Iの離乳開始後の進行状況は、幾分遅れきみで、食品の摂取量も少ない傾向にあった
脳性麻痺児の成長パターン	Pattern of growth in children with cerebral palsy.	KRICK J, ZEGER S (Johns Hopkins Univ.), MURPHY-MILLER P (Kennedy Krieger Inst.), WRIGHT E (Univ. Glasgow, GBR)	J Am Diet Assoc JST資料番号:H0466A ISSN:0002-8223 CODEN:JADAAA	Vol.96, No.7, Page.680-685 (1996.07) 写図表 参: 写図7, 表2, 参32	男女360人の生後120か月まで、四肢麻痺性脳性麻痺児の身長・体重・身長体重比等の成長パターンを観察した。その結果、脳性麻痺児は年齢増加と共に直立身長・体重増加は停滞して行き、身長は二歳で停滞する児より5%、8才で10%低かった。この観察で得られたチャートは、親や健康管理者にとって栄養状態を推察するのに有効な指標となるであろう
ハーマニックMの使用により著明に皮膚症状、毛髪異常が軽減した1重症心身障害児例の経験	Improving of Severe Dermatitis and Change of Hair Occurred in a Handicapped Child by Feeding with Harmonic-M: a	星野恭子, 諸岡啓一(東邦医大)	JJPN JST資料番号:G0430B ISSN:0388-127X	Vol.18, No.8, Page.643-645 (1996.08) 写図表 参: 表1, 参14	最重症の重症心身障害児(2歳)の男児に對してハーマニックM(1)を使用して毛髪所見、皮膚症状が著明に改善した症例を経験し、文献の考察を加えて報告した。改善理由として、中鎖脂肪酸トリグリセリド自体の吸収や長鎖脂肪酸トリグリセリド、Ca,Mgの吸収が増加したことにより腸粘膜の機能が改善し他の微量元素やアミノ酸等の吸収が改善したためと推測した
重症心身障害児・者(重症障害)の腎臓尿器疾患合併症に関する検討 3. グアニジノ化合物の検討(厚生省S)	Guandino compounds in patients with severe motor and intellectual disabilities.	倉繁隆信, 藤枝幹也, 大石尚文(高知医大), 細川卓利(五月会 須崎くろしお病院), 前田治子, 白石泰資, 小倉英郎(国立療養所 東高知病院)	重症心身障害児・者(重症障害)の腎臓尿器疾患合併症に関する検討 3. グアニジノ化合物の検討(厚生省S)	Page.98-104 (1996) 写図表 参: 写図6, 参7	重症心身障害児・者28名を対象に、血中と尿中のグアニジノ化合物を測定し、患者背景との関連を検討した。血中クレアチニン値は異常高値者は認められなかった。グアニジノ尿酸は血中・尿中とも対照と差はみられなかったが、総腎機能を表す腎排泄率も2例に異常低値が認められた。メチルグアニジニン(MG)は、血中では1例のみ検出された。尿中MG排泄率は、対照に比し高値の傾向を示した





障害者サービス領域における栄養に関する先行研究

和文課題	英文課題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
311 加齢に伴う諸問題-知的障害者を中心とした知的障害者の早期老化の危険性とは?	Problems with aging - Focused on the intellectually disabled. What is danger in premature aging of the intellectually disabled?	春名由一郎 (日本障害者雇用促進協会)	職リハネットワーク JST 資料番号:L1749A ISSN:09117-3420	No.31, Page.4-8 (1996.01) 写真表参:写真1, 参48	知的障害者の早期老化の問題を、ダウン症を中心に環境的危険因子と機能障害レベルの観点から整理した。まず、知的障害者の早期老化の環境的危険因子を克服するための諸条件として、1)保健医療への接近可能性、2)食事、栄養、3)健康行動(生活習慣の管理)、4)有酸素運動、5)筋肉トレーニング、6)精神機能、生活能力、職業能力について述べた。次いで、ダウン症候群と運動機能障害の合併についてこれまでに積み重ねられてきた知見を紹介した
312 心身障害者施設における給食の実態と問題点 身体障害者施設における給食の実態と問題点	Problem and actual condition of a foodservice in mentally and physically handicapped people's facilities. Problem and actual condition of a foodservice in physically handicapped people's facilities	松本啓子 (神奈川県総合リハビリ事業団)	栄養日本 JST資料番号:L0553A ISSN:0013-6492	Vol.38, No.14, Page.704-706 (1995.11)	身体障害者施設における給食の問題について、実態をふまえて紹介した。入所者の重度化に伴い身体障害者に加え内部疾患が増し、給食の内容が準病院化対応状況となっている事を説明し、治療食としての取組が皆無である事、栄養指導も無い事は問題と指摘した。また、治療が終了して退所するとしても、生活基盤の確立が出来ていない事が問題と述べた
313 心身障害者施設における給食の実態と問題点 視覚障害者施設における給食の実態と問題点	Problem and actual condition of a foodservice in mentally and physically handicapped people's facilities. Problem and actual condition of a foodservice in visually handicapped people's facilities	角南圭子 (東京都大泉更生園)	栄養日本 JST資料番号:L0553A ISSN:0013-6492	Vol.38, No.14, Page.702-704 (1995.11)	視覚障害者施設における給食の実態と問題点を述べた。はじめに利用者の食生活の充実に必要な事項を説明した。次に問題点として視覚障害者の栄養に関する問題点、食事指導上の問題点について述べた。また、具体的な食事指導の試みとして、健康講話の実施、肥満防止対策、点字の献立表、試食会、料理教室などについて紹介した
314 心身障害者施設における給食の実態と問題点 精神障害者施設における給食の実態と管理の実態	Problem and actual condition of a foodservice in mentally and physically handicapped people's facilities. Characteristics of the foodservice in the facilities for intellectually handicapped person and the actual condition of management of food services.	政安静子 (茨城県コロンビーあすなろ)	栄養日本 JST資料番号:L0553A ISSN:0013-6492	Vol.38, No.14, Page.698-700 (1995.11) 写真表参:表2	精神障害者施設における給食の実態を紹介した。各種の代謝障害を持つ利用者に対する栄養給食と目標量の設定の困難さを述べた後、給食管理の実態について以下のように説明した。すなわち、性別・年齢別、運動量などによる栄養給食と目標の設定方法、食事の提供方法、食事の提供防止対策、点字の献立表、食事指導について紹介した
315 心身障害者施設における給食の実態と問題点 障害児に喜ばれる給食を指して	Problem and actual condition of a foodservice in mentally and physically handicapped people's facilities. Foodservice for handicapped children with pleasure.	梶川栄一 (心身障害児総合医療療育センター)	栄養日本 JST資料番号:L0553A ISSN:0013-6492	Vol.38, No.14, Page.707-709 (1995.11) 写真表参:表2	心身障害児施設において、入所者に喜ばれる給食作りについて紹介した。はじめに食事の特徴及び食事基準を説明し、食品詳細調理方法として羊、野菜、果実類の調理方法について述べた。次に調理上の工夫として、料理の温食、冷食、色合い、盛りつけと食器に対する配慮が必要となる事、及び他分野との協力が必要となる事などを説明した
316 心身障害者施設における給食の実態と問題点 重症心身障害児施設における食事管理	Problem and actual condition of a foodservice in mentally and physically handicapped people's facilities. Management of feeding in the severely multiple handicapped children's facilities.	平野孝則 (毛呂病院光の家)	栄養日本 JST資料番号:L0553A ISSN:0013-6492	Vol.38, No.14, Page.700-702 (1995.11)	重症心身障害児施設における給食管理の実態について紹介した。重症心身障害児は精神薄弱と肢体不自由という二つの大きな中枢神経障害が主体となる疾患である事、重症心身障害児施設の特徴、食数と食糧について説明した。また、重症心身障害児施設における問題点として、口腔疾患の特徴、便秘、栄養所要量などについて述べた
317 ターミナルケアにおける歯科の役割 その9 重症児からのメッセージ	Roles of dentists in terminal care. 9. Messages from seriously handicapped children.	丹羽国子 (愛知県心身障害者コロニー中央病院)	日本歯科評論 JST資料番号:X0109A ISSN:0289-0909	No.637, Page.210-213 (1995.11) 写真表参:参4	重症心身障害児のターミナルケアにおける歯科の役割を概説した。入院中の脳性麻痺、てんかん、中枢性呼吸障害の6才児では歯を磨かぬ傾向を示し、4才5か月で死亡したコルネリア・デラランジェ症候群の患者では死亡時に歯肉増殖・軟塊、口角下垂で口が閉じない例を示した。外来でも下顎腫瘍で食べられなくなり口腔内の排膿を示した患者は菌血症、感染性ショックで死亡した。いずれも鼻口腔ケアの重要性を重症心身障害児尿中の3-ヒドロキシインドール酢酸と3-メチルクロコトニルグリシンの分析により、障害児の栄養状態と蛋白質代謝を推定した。サンプルは24名の男性と19名の女性の女性より得た。対照として23名の健康人の大人の尿を用いた。分析にはGC/MSを用い、障害児は対照の約10倍の上記物質の測定値を示した。但し3-ヒドロキシインドール酢酸の原因は不明であった
318 重症心身障害児における尿中代謝産物の測定	Measurement of urinary metabolites in handicapped patients.	大河内正和、井上文夫、幸道直樹、寺田直人、山添一郎、衣笠昭彦、沢田淳、長谷川武史 (京都府医大)	日本医歯学雑誌 JST資料番号:L0588A ISSN:0916-085X	Vol.20, Page.85-86 (1995.09)	33人(女性18人、男性15人)の重症心身障害児(者)を対象に、安静時代謝量、身体計測値、血液性状、栄養摂取量を検討した。第四次改定日本人の栄養所要量を基準値に用いた。結果は、対象者が基準値に対して低身長、低体重を示した。体重当たりの安静時代謝量は基礎代謝量より高値で、栄養素等摂取量はビタミンA以外は基準値より少なかった
319 重症心身障害児(者)の栄養状態	Nutritional Status of Persons with Severe Mental and Physical Handicaps.	松枝秀一、小野章史、武政睦子、守田哲朗 (川崎医療福祉大)、諸岡美智子、林優子、梶井敬子 (旭川旭川児童院)	栄養学雑誌 JST資料番号:F0151A ISSN:0021-5147 CODEN: EYGZA	Vol.53, No.3, Page.167-173 (1995.06) 写真表参:写真2, 表5, 参14	

障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

(40/48)

	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
320	衛生高母子保健課「在宅重症心身障害児訪問看護事業」訪問看護対象児に対するアンケートによる在宅重症児の実態調査	Field study of home-visit nursing seriously handicapped children at home according to questionnaire for Health and Medical Bureau, Maternal and Children Health Department "severely multiple handicapped children at home visiting care business".	倉田清子, 松井瑠璃, 苗木昇, 山田和孝, 松崎美保子, 神保真理子, 井上優子, 永田仁郎 (東京都府中療育七)	東京都神経科学総合研究所研究紀要 JST資料番号: X09444A ISSN: 0286-4584	Vol.23(1994), Page.190-194 (1995.03) 写図表参: 写図11	訪問看護を行っている在宅重症心身障害児の家族に対しアンケート調査を行った。症例の約50%は何らかの医療処置がなされており、訪問看護に対して吸引、注入栄養などの医療対応を望む声が多い。在宅療育の不安として、児の病状や予後の他に介護者自身の健康の問題や親亡き後の不安があげられる。緊急一時入所に関しては介護者の疲労および家族の病気の時が最も多かった
321	作業療法と肥満・肝機能障害・高脂血症との関連に関する研究 自動車製造業からの販売店出向者における検討	The Study of the Relation between the Working Conditions and the Prevalences of Obesity, Liver Disorder and Hyperlipidemia: Evaluation of Physiological Examination Data during the Terms of Car Manufacturing Work and Car Sales Work.	金子光延, 小田登 (日産自動車), 和田則仁, 岡崎勲 (東海大 医)	産業衛生学雑誌 JST資料番号: F0261A ISSN: 1341-0725	Vol.37, No.1, Page.33-41 (1995.01) 写図表参: 表8, 参41	作業療法との関連による健康への影響において、特に肥満、肝機能障害、高脂血症との関連について、自動車製造業から自動車販売店へ出向した61名の男性従業員を対象として出向前後の検査データの比較および作業療法と生活習慣についてのアンケート調査を行い検討した。検査データより、販売店出向終了後には、出向前と比較して体重、BMI, GOT, GPT, $\gamma$ -GTP, TG, T-CHOは有意に増加し、肥満および肝機能障害者は有意に増加した。製造業からの販売店出向により飲酒量の増加、習慣飲酒者の増加、喫煙量の増加および食事習慣の変化を認められた。作業療法の変化に伴う生活、食事習慣の変化が、肥満および高脂血症により生活、食事習慣に影響を与えることが示唆された。作業療法による生活指導を含んだ健康指導、管理を実施することが今後の健康増進のうえに重要である。
322	衛生高母子保健課「在宅重症心身障害児訪問看護事業」訪問看護対象児に対するアンケートによる在宅重症児の実態調査 (東京都神経科学総合研究所)	Field study on seriously handicapped stay-home children by the questionnaires for children who received visiting care of "Stay-home Severely Multiple Handicapped Children Visiting Care Program" by the maternal and child health department of Health and Medical Bureau. (Sponsor: Tokyo Metropolitan Inst. for Neurosciences).	倉田清子, 松井瑠璃, 苗木昇, 山田和孝, 松崎美保子, 神保真理子, 井上優子, 永田仁郎 (東京都府中療育七)	府中キャンパスにおける在宅看護システムのあり方に関する研究 平成5年度 第1年次報告 プロジェクト研究 JST資料番号: N19942947	Page.25-29 (1994) 写図表参: 写図11	標榜の訪問看護症例は10歳までが1/2弱を占め、医療処置は経管栄養50%弱、吸引50%強、吸入26%、気管切開23%、酸素吸入7%であった。在宅療育上、児の病状や予後などを気遣うだけでなく、介護者自身の健康 康 糊 亡 後 の 不 安 等 が 大 き な 問 題 と な っ て い た 。 緊 急 一 時 入 所 に 関 し て は 、 家 族 の リ フ レ ン シ ュ や 旅 行 の 時 に も 利 用 で き る こ と を 望 ん で い た [1994.3]
323	重症の身体障害及び発育不全を伴った患者の食事摂取量と身体計測値	Dietary Intake and Anthropometric Status of Persons with Severe Physical and Developmental Neurological diseases.	HOGAN S E, EVERS S E (Univ. Guelph, Ontario)	Nutr Res JST資料番号: E0636B ISSN: 0271-5317 CODEN: NTRSDC	Vol.14, No.10, Page.1473-1489 (1994.10) 写図表参: 表8, 参58	重症の発育不全を伴った患者の身体計測により、体重増加群(I)、体重減少群(II)に分けて、それぞれの食事摂取量と身体計測値を6カ月の栄養リハビリテーションプログラム前後で測定した。栄養リハビリテーションにより身長・年齢・年齢・年齢のZスコアは全群で改善された。I群では体重・年齢・年齢・年齢のZスコアが増加し、II群の平均体重増加量は、それぞれ1.2及1.1kgであった。また、食事摂取量も全群近年、難治性の糖尿病から心身に重い障害を持ったまま在宅医療を続けている患者が増加している。本稿では神経皮膚症候群、重症心身障害児、脳変性疾患と類似疾患、てんかんを取りあげ、概説と在宅療育を進める上での問題点や今後の課題について述べた。重症疾患をもつ子供達のクオリティオブライフ
324	特集 小児の難病 その実態と対策 神経疾患	A Study of Personal Independence for a Patient with Mental Disorder. Through a Home Visit.	内藤春子 (国立小児病院)	Pharma Med JST資料番号: F0652B ISSN: 0289-5803	Vol.12, No.9, Page.41-45 (1994.09) 写図表参: 表4, 参3	近年、難治性の糖尿病から心身に重い障害を持ったまま在宅医療を続けている患者が増加している。本稿では神経皮膚症候群、重症心身障害児、脳変性疾患と類似疾患、てんかんを取りあげ、概説と在宅療育を進める上での問題点や今後の課題について述べた。重症疾患をもつ子供達のクオリティオブライフ
325	精神障害者の自立に関する研究 家庭訪問を通して	Research on symptoms, long-term prognosis and function improvement of severely multiple handicapped children. Research report in fiscal 1993. (Sponsor: Ministry of Health and Welfare).	南好子 (滋賀県短大)	滋賀県立短期大学学術雑誌 JST資料番号: G0579A ISSN: 0371-3385 CODEN: STDZAF	No.46, Page.63-67 (1994.09) 写図表参: 表4, 参5	事例は58歳女性で、35年間の長期入院生活から共同同居を経てアパート退院し、退院後約3年間の日常生活・対人関係における変化につき観察した。対人関係、会話行動等は入院中と比較し、共同同居、アパートと経過する中で適正に近いと判断できる項目が増加した。訪問面接以外の調理実習、戸外レクリエーションなどが対人関係技能獲得に効果的であった
326	特集 口腔衛生と食生活 そしやくえん 下障者の栄養管理	Research on symptoms, long-term prognosis and function improvement of severely multiple handicapped children. Research report in fiscal 1993. (Sponsor: Ministry of Health and Welfare).	松崎政三 (厚生団 大阪厚生年金病院)	栄養日本 JST資料番号: L0563A ISSN: 0013-6492	Vol.37, No.6, Page.37-369-37.332	事例は58歳女性で、35年間の長期入院生活から共同同居を経てアパート退院し、退院後約3年間の日常生活・対人関係における変化につき観察した。対人関係、会話行動等は入院中と比較し、共同同居、アパートと経過する中で適正に近いと判断できる項目が増加した。訪問面接以外の調理実習、戸外レクリエーションなどが対人関係技能獲得に効果的であった
327	重症心身障害児の病態・長期予後と機能改善に関する研究 平成5年度研究報告書 (厚生省)	Research on symptoms, long-term prognosis and function improvement of severely multiple handicapped children. Research report in fiscal 1993. (Sponsor: Ministry of Health and Welfare).	黒川徹 (国立療養所西別府病院)	重症心身障害児の病態・長期予後と機能改善に関する研究 平成5年度研究報告書 JST資料番号: N19940930	Page.312P (1994)	標榜研究の1993年度の成果を以下の内容で報告した。1)総括報告 2)分担研究報告 (重症心身障害児(者)の生存分析と予後、九州地区療養所における突然死、重症児の実態研究) 3)研究、病因診断における「シンクロナータベース」の応用、脳幹病理、突然死について、シナプス病理学的評価の相関関係についての研究、脂肪代謝調節の解析、有機酸尿症に関する研究、経管栄養重症児のセレン欠乏、病態生理学的研究、てんかんの病態と治療、聴覚認知の電気生理学的研究、自律神経機能の評価と改善、多小脳回ないし厚脳回の臨床と画像診断ほか44件 [1994.3]





障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
347	児童・思春期における行動・情緒障害の成因と状態に関する研究厚生省「精神・神経疾患研究委託費」2指-15 平成3年度研究報告書(厚生省S)	Research on the cause and diseases of behavioral and emotional disturbance in children and adolescent. Report of work supported by the Ministry of Health and Welfare, "psychoneurologic disease research commission", 2 - 15 in fiscal year 1991. (Sponsor: Ministry of Health and Welfare).	若林慎一郎(岐阜大 医)	児童・思春期における行動・情緒障害の成因と状態に関する研究 平成3年度研究報告書 JST資料番号: N19921159	Page.162P (1992)	標記に関し、本年度は次の6領域を指定して研究を行った。うつ状態、精神保健、疫学、精神病理学、精神生理、精神心理学、発達障害、診断分類、小児用抑うつ尺度の共同調査。主な研究テーマは次の通りである。 1)自己認識の発達と抑うつ傾向、2)うつ状態の診断及び状態、3)うつ状態の臨床、4)ライフイベントと情緒障害、5)高校生女子に潜在する摂食障害、6)自覚症状と問題行動、7)学校不適応からみた精神保健と情緒障害、8)登校拒否の成因と病態、9)摂食障害の精神病理と治療反応性、10)情緒障害の臨床運動、11)眼球運動を指標とした認知機能の発達、12)感情障害・精神分分裂病の成因、13)ハイリスク乳幼児における神経行動発達と母子関係発達、その他[1992.3]
348	特集 えん下障害者への対応とその食品の物性 えん下障害者への食事の対応	Special issue : countermeasures to a disordered deglutition person and physical property of foods for them. Countermeasures of the meal to a disordered deglutition person.	松崎政三(湯河原厚生年金病院)	栄養日本 JST資料番号:L0553A ISSN:0013-6492	Vol.35, No.4, Page.180-185 (1992.04) 写図 表参: 写図2, 表 2, 参6	これまで専門医の指導のもとに個別対応してきたえん下障害者の食事に関して、障害の各段階の臨床的な評価とそれに対する望ましい食物形態を考慮した上で、えん下困難食(介護食)マニュアルを開発した。その開発の経緯や実際のマニュアルを示し、その利用方法、献立例、適応食品を具体的に解説。さらに改善すべき問題点についても触れている
349	特集 えん下障害者への対応とその食品の物性 えん下障害者の食事とそのデクスタチヤ	Special issue : countermeasure to a disordered deglutition person and physical property of foods for them. Meal for a disordered deglutition person and its nutritional status in handicapped patients according to severity.	赤羽ひろ(関東学院女短大)	栄養日本 JST資料番号:L0553A ISSN:0013-6492	Vol.35, No.4, Page.178-180 (1992.04) 写図 表参: 写図3, 参 5	えん下障害者にとって食べ物のデクスタチヤはえん下(食物が気管に入る)を防ぐ上で重要であるという観点から、えん下障害者の実際の食事のデクスタチヤ特性値の測定を行い、実際の把握を試みた。またデクスタチヤを改善するために使用される各種水溶性高分子(澱粉、澱天、ペクチン等)ととりわけ、具体的な使用方法について触れている
350	重症心身障害児者の栄養評価 運動機能・栄養方法別による栄養マセメント	A Consideration on the Treatment and Education for Severely Handicapped Children 1. Case Studies of Nine Children Entering the Institution for Severely Handicapped Children.	安藤寛(久留米大 医)	久留米医学雑誌 JST資料番号: F0979B ISSN: 0368-5810 CODEN: KIZAAL	Vol.54, No.11, 補冊, Page.877-885 (1991.11) 写図 表参: 写図3, 表 4, 参24	標記の対象者150名を、最大運動機能と栄養方法により5群に分け、身体計測と生化学的パラメーターで運動機能と栄養状態の関係を評価。5群全てに皮下脂肪量、筋蛋白量の減少が示されたが5群間での有意差はなく、瘦たさや経管栄養のV群でエネルギー・栄養障害より蛋白栄養障害に比較的多い下腿浮腫が9.5%にみられ、蛋白栄養状態の注意深い管理が重要なことがわかった
351	重症心身障害児の治療教育に関する考察 1 重症心身障害児施設に入園している9事例の検討を中心として	A Consideration on the Treatment and Education for Severely Handicapped Children 1. Case Studies of Nine Children Entering the Institution for Severely Handicapped Children.	船津守久(広島大 学校教育)	広島大学学校教育学雑誌 第1部 JST資料番号: X0504A ISSN: 0387-4850	Vol.14, Page.135-141 (1992.01) 写図 表参: 参9	重症心身障害児において養護を促すことのできた9例を紹介した。スキミングを行うことによるもの2例、マクロコンビエーターを利用した治療によるもの、鼻腔栄養から経口栄養へ移行したことによるもの、文字の学習を取入れたことによるもの、排せつ・食事指導によるもの各1例、拒食傾向に対する食事指導によるもの3例を紹介した
352	重症心身障害児、若末梢血単核球のインターフェロ-γ産生能の検討	Interferon-gamma production of peripheral blood mononuclear cells in severely retarded children and adults.	村上信行, 森田英雄, 島内泰宏, 森田文彦, 倉繁隆信(高知医大)	医学と生物学 JST資料番号: F0708A ISSN: 0019-1604 CODEN: IGSSBA	Vol.123, No.6, Page.285-288 (1991.12) 写図 表参: 写図3, 参 9	3歳から52歳の患者44例を対象にして、課題物質産生能を検討した。レクチン添加時の産生能は、心身障害例(I)が5.2IU/ml, 経口摂取可能な重症心身障害例(II)が36.1IU/ml, 経管栄養を施行中の重症心身障害例(III)が16.9IU/mlであった。インターフェロ-γ産生能は、Iが48.8IU/ml, IIが33.4IU/ml, IIIが21.9IU/mlであった
353	新生児期・乳児期の生活管理のあり方に関する総合的研究 平成2年度研究報告書(厚生省S)	Comprehensive research on the ideal way of life and control in neonatal and sucking stages. Study report in the fiscal year 1990. (Sponsor: The Ministry of Health and Welfare).	小川雄之亮(埼玉医大 総合医療セ)	新生児期・乳児期の生活管理のあり方に関する総合的研究 平成2年度研究報告書 JST資料番号: N19912636	Page.237P (1991)	これらの病態を有する児について併せて在宅ケア支援システムの効果的なあり方を検討し、未熟児を含めた新生児・乳児の家庭もしくは保育施設における生活管理指針の算定を図ることを目的とした。1)新生児・乳児の栄養管理に関する研究(極小未熟児・超未熟児の生後の発育曲線作成に関する研究、乳児の骨量を増加させる栄養法等)、2)慢性肺障害の管理と予防に関する研究(極小未熟児の出生時気道内吸引液の成分、カゼラスタゼと慢性肺障害の発症に関する研究、気管内吸引液の細菌学検査等)、3)新生児・乳児の在宅療法と生活管理をめぐる保健指導に関する研究(ハイリスク新生児の再入院、中枢神経障害児に対する療育指導等)、4)新生児・乳児の退院後の在宅ケアシステムに関する研究(新生児・未熟児医療における病院と保健所の連携)について、小児の在宅医療に関するアンケート等[1991.3]



障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

(44/48)

	和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻号ページ(発行年月日)	抄録
354	重度重複障害児の疾病構造と長期予後に関する研究(厚生省精神・神経疾患研究委託費平成元年度研究報告書(厚生省S))	Study on disease structure and long-term prognosis in severely double handicapped child. The Ministry of Health and Welfare. Supported by grants for the research of neuropsychiatric disease. Study report in the fiscal year 1989. (Sponsor: The Ministry of Health and Welfare).	三吉野彦治(国立療養所西別府温泉)	重度重複障害児の疾病構造と長期予後に関する研究(平成元年度研究報告書 JST資料番号: N19912570)	Page.261P (1990)	本報告は標記研究の二年目の成果をまとめたもので次の部門よりなる。1)疫学:日本における重症児の有病率は約1/1000,地域差が沖縄,鹿児島,東京で認められた。死因は特に母子不分離の影響が目立った。2)病理:脳の変化,早発老化の反映と思われる神経原線維変化の存在等が明らかとなった。3)痛楚:生理:重症児に対する免疫学的,電気生理学,てんかんの合併,長期経過の観察による早発老化の発見,側腕と二次障害,自律神経機能の異常などの分析から痛楚像が明かとなりつつあり,新しい疾患概念も生まれつつある。4)栄養:治療,感染,予後:長期経過栄養による微量元素の低下,摂食障害の病態,易感染症と免疫異常,周産期脳内出血等の問題をとりあげた。本報告論文数41編である[1990.3]
355	飲酒と肝機能障害に関する疫学的検討	An epidemiological study on the relationship of alcoholic beverage intake to liver function impairment.	岡本伸夫(愛知医大)	愛知医科大学医学雑誌誌 JST資料番号: Z06590A ISSN: 0301-0902 CODEN: AIDZAC 8, 参26	Vol.19, No.2, Page.311-319 (1991.03) 写図 表参:写図3, 表参:写図5, 表参:写図8, 参26	20-50歳代の男性労働者2929名の飲酒形態を調査した。内46.2%の「毎日飲酒者」につき飲酒量や栄養因子と肝機能障害の関連性につき検討した。肝機能障害者頻度は,一回飲酒量の多い程度で総飲酒量721(100%エネルギー)以上で高率であった。糖,蛋白質,脂質の各栄養摂取量は肝機能障害者と非障害者とで差がなかった。本症の発症防止に一回飲酒量の削減が重要と考えられる
356	新生児・乳幼児頭蓋内出血の病因分析と予後	Pathogenetic Analysis and Prognosis of Collection of Cerebro-spinal Fluid in Newborns and Infants.	柴田家明, 清水義勝, 小名木敦雄, 黒木貫夫, 西川秀人, 大石仁志, 三瓶建二, 田中正人, 沢田健(東邦大医)	東邦医学会雑誌 JST資料番号: G0654A ISSN: 0040-8670 CODEN: TOIZAG	Vol.38, No.2, Page.250-258 (1991.07) 写図 表参:写図5, 表参:写図6, 表参:写図8, 参26	新生児頭蓋内出血(69例),重症低酸素症(103例),ビタミンK欠乏性頭蓋内出血(4例),新生児・乳幼児頭部外傷(31例)に見られる標記現象(SDE)の経過を検討した。前2者では60-70%にSDEを認め,その60%以上が1年以上以内に消失し,予後も良好であったのに対し後2者では予後不良で,身体精神発達遅延をきたすものも多かった
357	高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業に関する研究(平成2年度研究報告書(厚生省S))	Research on maternal and child health business decision in the coming graying society. Study report in the fiscal year 1990. (Sponsor: Ministry of Health and Welfare).	平山宗宏(日本総合愛育研)	高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業に関する研究(平成2年度研究報告書 JST資料番号: N19911853)	Page.546P (1991)	研究課題は次のとおりである。1)幼児健診の改善に関する研究,2)幼児歯科健診システムの改善・充実に関する研究,3)母子保健担当者の教育・研修システムに関する研究,4)育児における父親の役割に関する研究,5)母子保健データベースに関する研究,6)障害児医療・療育・福祉の連携と包括化に関する研究,7)在日外国人の母子保健の現状と対策に関する研究,8)地域母子保健計画の策定に関する研究,9)地域保健における母子保健員業務のあり方に関する研究,10)母子に対する栄養指導の指針策定に関する研究,11)離乳食・幼児食に関する研究,12)アレルギー性疾患患児に対する食生活指導の研究,13)歯科疾患予防に関する食習慣に関する研究など24課題の成果を報告した[1991.3]
358	先天性心疾患をもち成長の遅くない幼児におけるエネルギー出納と成長に対する高エネルギー一給餌の影響	The effects of high-energy feeding on energy balance and growth in infants with congenital heart disease and failure to thrive.	JACKSON M, POSKITT E M E (Univ. Liverpool, Liverpool)	Br J Nutr JST資料番号: B0336A ISSN: 0007-1145 CODEN: BJNUVA	Vol.65, No.2, Page.131-143 (1991.03) 写図 表参:写図4, 表参:写図5, 参31	標記患児のエネルギー保持と成長改善における,グルコースがエネルギー摂取量の増加に,体重増加量も大きく増えた。休息時酸素消費量には影響がなかったが,呼吸商は増加した。成長のためのエネルギーコストは正常児と同等で,標記患児に高エネルギー一食を与えることは有益であった
359	胃食道逆流を伴う重度重複障害児に対する経鼻十二指腸空腸カテーテルによる経腸栄養法の検討	Tube feeding in severe handicapped children with gastro-esophageal reflux.	下村千枝子, 金森有慶, 淺野清治(みさかえの園むつみの家), 木下節子, 辻芳敏(長崎大医)	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Page.259-261 (1991.03) 写図 表参:写図2, 表参:写図3, 表参:写図4, 表参:写図5, 参6	6歳男児で,新生児低酸素性脳障害による左心室性四肢麻痺の重症心身障害児で難治性てんかんを合併している患者が,2歳頃から逆流性食道炎を発症していた。経鼻十二指腸空腸カテーテルによる経腸栄養法を試み,低分子ブドウ糖を配合した経腸栄養剤エンテールを使用し,おう吐の減少,低栄養,低Na血症の改善がみられ,感染の頻度も著しく減少した
360	長期滞在精神障害者における栄養素摂取量	Nutrient intakes in long-stay mentally handicapped persons.	CUNNINGHAM K, MULCAHY M (Stewarts Hospital, Dublin, IRL), GIBNEY M J, KELLY A, KEVANY J (Trinity Coll., Dublin, IRL)	Br J Nutr. JST資料番号: B0336A ISSN: 0007-1145 CODEN: BJNUVA	Vol.64, No.1, Page.3-11 (1990.07) 写図 表参:表9, 参26	15-64歳の標記男女について,半重量法による食事調査を行なった。男の19%,女の5%はやせ,男の15%,女の27%は肥満に分類された。平均摂取量はエネルギー-8.8MJ,蛋白質92g,炭水化物218g,脂肪101gなどで,蛋白質,炭水化物,脂肪のエネルギー比率は18.39,43%であった。エネルギー一摂取量と歩行の可否,傷害の程度,栄養素には関係がなかった
361	高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業策定に関する研究(厚生省S)	Study on maternal and child health service strategies towards graying society. Study on mental and physical disorders sponsored by the Ministry of Health and Welfare. (Sponsor: Ministry of Health and Welfare).	平山宗宏(日本総合愛育研)	高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業策定に関する研究(平成1年度研究報告書 JST資料番号: N19903480)	Page.385P (1990)	本研究は,地域母子保健事業のシステムの充実を図る上で,問題点を総合的に検討し,今後の母子保健施策の推進に資することを目的とした。内容は,1)地域母子保健サービスの改善・充実に関する研究における,幼児健診の充実に関する研究など11研究,2)地域における母子保健と母子福祉の連携に関する研究における,障害児医療・療育・福祉の連携と包括に関する研究など5研究,3)母子保健事業の向上に関する衛生行政学的研究における,母子保健事業の効率的運用に関する研究など4研究,4)母子栄養指導のシステム化に関する研究における,母子に対する栄養指導の指針策定に関する研究など4研究 [1990.3]
362	公衆衛生に関する研究報告(昭和63年度(東京都衛生局))	Study report on public health. In 1988. (Sponsor: Tokyo Metropolitan Gov., Bureau of Public Health).	友松栄二(東京都八王子保健所), 武田友子, 加藤芳美, 藤本まり子(東京都日野保健所), 岡前真千子(東京都武蔵調布保健所), 今西富貴子(東京都小平保健所)	公衆衛生に関する研究報告 JST資料番号: J0180A	Vol.1988, Page.115P (1990.03)	東京都の各保健所が医科,歯科,理学療法士等の協力を得て実施した研究の成果をまとめた。1)八王子市における地域別死因の把握と分析(八王子市保健所,杏林大学保健学部),2)母体の妊娠時体重と出生時体重との関係(日野保健所,東京医科大学保健衛生学教育室),3)脂肪酸代謝と動脈硬化の関係(日野保健所,東京医科大学保健衛生学教育室),4)小児の口腔衛生に関する研究(日野保健所,昭和女子大学歯学部小児歯科),5)福祉作業所通所者の体力づくり(武蔵調布保健所,江原保健所,東京慈恵医科大学第三病院内ハビリテーション科),6)アレルギーを有する母乳栄養児への援助(小平保健所,藤市立病院小児科)から



障害者サービス領域における栄養に関する先行研究

(46/48)

和文標題	英文標題	著者名	資料名	巻ページ (発行年月日)	抄録
375 四国地方の地区組織活動	Community activity in the Shikoku district.	栗成文彦, 浅川富美雪, 中嶋泰知, 後藤敦, 眞鍋芳樹 (香川医大), 松田博美, 大池明枝 (香川県看護専門学校)	四国公衆衛生学会雑誌 JST資料番号: Z0852A ISSN: 0286-2964	Vol.33, No.1, Page.14-21 (1988.02.10) 写 図表参: 写図2, 表8, 参11	四国地方の保健・医療・福祉分野における住民参加, あるいは組織活動状況について, 農山漁村地区保健所及び市町村に対するアンケート調査結果から検討, 市町村段階における各組織率は婦人会, 民生委員, 老人クラブ等の順で参加活動状況も同様であった。保健所段階の組織率は食生活, 栄養改善組織や精神障害者家族会等保健衛生を主旨として結成された組織が上位であった。参加活動状況は保健衛生推進員組織, 婦人会, 食生活, 栄養改善組織, 次いで精神保健が上位であったが, 個別ではそれぞれ順位赤色, 黄色, 緑色のカテゴリーとして350種以上が知られているが, このうち人に有用なβ-カロテン(β)は最も有名。人はこの摂取を植物性油, 海魚, 微生物に依存。IIはビタミンA(II)の前駆物質で, 調理加熱温度範囲でも安定。このままでは吸収され難いが油脂を併用すれば吸収は促進される。食物繊維, ビタミンEは吸収を阻害。テロキシン(III)はHDLを酸化する酵素を活性化しての産生を促進。IIIの分泌障害者の血清中のIは高含量。Iは組織効果と皮膚疾患の治療に有効とされ, 免疫力増強効果も保有するといわれる。
376 健康と食品の色からみたカロチン類	Carotenoids reviewed for health aspects, food colors.	LABELL F	Food Process (Itasca) JST資料番号: B0010C ISSN: 0015-6523	Vol.49, No.6, Page.19- 21, 24, 26, 30 (1988.06) 写図 表参: 写図5	
377 公衆衛生に関する研究報告 医科大学の保健所に対する技 術協力事業 昭和61年度(東京 都衛生局S)	Research report on the public health, Technological cooperation service to health centers in medical universities. Research report in 1986. (Sponsor: Tokyo Metropolitan Government, Bureau of Public Health)	中野英一 (杏林医大), 米本恭三 (東京慈恵会医大), 本多輝男, 外山圭助 (東京医大)	公衆衛生に関する研究 報告 JST資料番号: J0180A	Vol.1986, Page.113P (1988.03)	標記について, 1)地域住民の飲酒習慣調査及び飲酒と血圧, 心電図との関連, 2)心身障害者の運動・栄養・生活処方に基づき体力づくり, 3)アレルギ-疾患を有する母乳栄養児への援助, 4)新生児異常に及ぼす各種因子の検討, 報告した。1)では, 飲酒率と血圧, 心電図, γ-GTP等との関連を調べた。女性にも多量飲酒者がみられ, 男女とも飲酒量の多いものは血圧上昇率が高く常習飲酒者は心電図異常の他に心筋異常にも影響する。2)では, 肥満度が±10%を超えた10名のうち7名に改善がみられ血液検査等では変化はなかった。3か月間では目標未達成, 4)では, 児異常の母側要因は, アレルギ-疾患・早産・位置異常・分娩時異常・流産歴・死産歴など, 分娩時異常は位置異常は関連が深い。(1988.3)
378 重度重複障害児の疾病構造と長期予後に関する研究 昭和62年度研究報告書(厚生省S)	Studies on epidemiology and long-term prognosis of children with severe multiple disability. Study report in 1987. (Sponsor: Ministry of Health and Welfare)	三吉野産治 (国立療養所西別府病院)	重度重複障害児の疾病構造と長期予後に関する研究 昭和62年度研究報告書 JST資料番号: N19882116	Page.100P (1988)	重度重複障害児に關して, 疫学, 神経病理, 病態生理の面から16課題を報告した。重症心身障害児の死因(肺炎等の検討, 重症心身障害の発生疫学, Rett症候群の疫学的検討を報告した。臨床的研究として, Rett症候群, 自閉症等の検討, 脳性麻痺の脳循環(123I-TMIPによる脳血流分布), 呼吸障害を示す例に対する呼吸機能・血液ガス分析, 寝たきり児症例に対する電気生理学的検討等から, 長期生命予後に対する判断を示唆を与えた。内分泌学的研究として, 身体発育不良や遅延を示す例の, 各種ホルモンの検討, 重症心身障害児の栄養状態把握の指標として, 血清レチノール結合蛋白質の測定を報告した。心身症(心)に關する混乱した疾病概念を明確にし, 個々の疾患の臨床的位置づけ, 診断, 治療, 予防のための有効な方法を探ることを目的とする。1)が一般臨床の中でどのように位置づけられ, 取り扱われているかの実態調査, 2)およびその周辺に位置づけられる病態に關する疫学的調査, その発症機序についての性格, 環境, 対人技術などの側面からの検討, 病態に關する心理学的, 生理学的, および従来の近接した位置づけられてきた技術障害, 胃粘膜炎, 単純性肥満, 慢性頭痛, 腰痛などの疾患の臨床的特徴の検討, 救命救急医療に關する心身医学的側面の調査を行った。本年度の1/2の研究結果について概要を記述した。
379 心身症の診断および治療予後に関する研究 昭和62年度研究報告書(厚生省S)	Studies on diagnosis, treatment, and prognosis of psychosomatic disorders. Study report in 1987. (Sponsor: Ministry of Health and Welfare)	保崎秀夫 (慶応大 医)	心身症の診断および治療予後に関する研究 昭和62年度研究報告書 JST資料番号: N19881633	Page.153P (1988)	久山町の満40歳以上の住民2337名を対象に肝障害の頻度を検討し, 肝障害に關する既往歴のアンケート項目と耐糖能異常, 肥満度, HBs抗原, HBs抗体, HBs抗体などを併せて検討。一般住民に關するアンケート項目と耐糖能異常, 肥満度, 肥満, 輸血量, 輸血が重要で, それ以外に非A非B型肝炎ウイルスの因子が大きいと考えられた。
380 久山町住民にみられた肝障害者の頻度とその関連要因 断面調査成績に基づく分析と考察	Prevalence of liver damage and its related factors among Hisayama residents - Results obtained from cross-sectional survey.	梶原英二 (九大 医)	福岡医学雑誌 JST資料番号: F0687A ISSN: 0016-254X CODEN: FKIZAA4	Vol.79, No.2, Page.168-184 (1988.02) 写図 表参: 写図1, 表12, 参67	重症心身障害者30例(抗バニリン剤服用患者-A群21例, 非服用患者-B群9例)の内19例にシフトロタキスアローロ0.125mg/カプセルを1日2カプセル投与。マイクロドレナントマトリ-法による骨密度測定では骨皮質幅指数のみに有意の変化が認められた。血清アルカリホスファターゼ値は有意に変化した。本例はA群では骨の悪化を防止し, B群では改善効果があった。長期投与で肝, 腎への副作用はなかった。
381 重症心身障害者の骨に対するシフトロタキスアローロの効果	Effect of dihydroxycholesterol on the bone of severely mentally and physically handicapped people.	松本栄存, 黒田佳治 (阪神福祉事業団 阪神福祉セザ療所)	新薬と臨床 JST資料番号: G0596A ISSN: 0559-8672 CODEN: SHRIA	Vol.37, No.2, Page.297-304 (1988.02) 写図 表参: 写図5, 表3, 参10	重症心身障害者13名を被験者とし, 成分栄養剤1200-1500kcal/日を1日中連続投与群と, 午前8時から午後8時まで限定した間投群とに分けて4時間ごとに尿量と体温を測定し両群を比較検討。尿量は両群ともほぼ正常な日内リズムを示したが, 体温は連続投与群で日内リズムが消失した。日内リズムの発現, 維持に栄養素の摂取パターンは重要な因子であるが, 尿排泄パターンには他の因子が関与していると思われる。
382 経腸栄養投与方法に關する生体リズム学的検討 II 尿排泄と体温の日内リズムに及ぼす投与パターンとの影響	Effects of total enteral nutrition on the circadian rhythm. (2). Relationship between the infusion pattern of nutrients and rhythms of urinary excretion and body temperature.	西村浩治, 斉藤昌之, 崎津孝, 井上賢二, 恒川謙吾 (愛媛大 医), 加藤秀夫 (広島女大 家政), 時田礼一郎 (松山ハビリ病院), 坂本勇人 (伊予病院), 山下治彦 (同仁会 吉田病院)	外科と代謝・栄養 JST資料番号: Y0699A ISSN: 0389-5564	Vol.21, No.2/3, Page.79-85 (1987.10) 写図 表参: 写図6, 表1, 参11	標記に關し, 以下の共同研究を実施し, その成果を総括した。1)現行母子保健システム(1)の分析・評価・改善31件, 2)発達障害児の早期発見, 早期療育のシステム化(32件), 3)児童期保健(44件), 4)幼児歯科保健(8件), 5)妊産婦死亡の実態把握とその対策樹立(11件), 6)地域母子保健サービスの充実(14件)(ND)
383 母子保健システムの乖離に關する研究 研究報告書 昭和60年度	Morigna arsenic milk intoxication case and prognosis of the victims.	高橋悦二郎 (日本総合愛育研)	母子保健システムの乖離に關する研究報告書 昭和60年度 JST資料番号: N19870611	Page.435P (1986)	森永ヒ素ミルク中毒事件の経過, 健康被害の推移, 被害者救済の今後について述べた。なお, 事件当時の被災者同盟の要求, ひかり協会の目的と事業, 事件当時の症状・所見, 京都府の追跡調査からみた被害者の健康状態の推移, 社会生活別にみた最近1か月の健康状況に対する回答, ひかり協会の年度別予算額を表にした。
384 森永ヒ素ミルク中毒事件と被害者のその後	Morigna arsenic milk intoxication case and prognosis of the victims.	山下簡義 (奈良県医大)	公衆衛生 JST資料番号: F0065A ISSN: 0368-5187 CODEN: KEISA	Vol.51, No.8, Page.538-543 (1987.08) 写図 表参: 表6, 参10	

障害者サービスの領域における栄養に関する先行研究

和文題	英文題	著者名	資料名	巻号ページ (発行年月日)	抄録
脂肪肝小児に対するアミノ酸負荷テストの成績	Fluctuation of serum free amino acid concentration after amino acid oral loading in children with fatty liver.	沼部博直, 宮原真智子, 飯泉守, 本多てる男 (東京医大)	必須アミノ酸研究 JST資料番号: Y0620A ISSN: 0387-4141	No.114, Page.38-41 (1987.06) 写図表参: 写図2, 表2, 参70	経口用アミノ酸製剤にフェニルを用い, 体重1kg当たり70mgの負荷量で症例を試験した。2例の必須アミノ酸の上昇率は50%以上で, 個々のアミノ酸では, Met(200%), Phe, His(50%), の高い上昇率を示し, LysとTrpは低かった。Metが最大Lysが最低の上昇率を示す必須アミノ酸では肝疾患特有のものではなかった。健康小児のアミノ酸負荷試験でも, 同様の結果を得た。
重症心身障害児の免疫機能の発達	Immunological development of severe handicapped children.	久保政勝, 瀬川孝昭 (東京慈恵医大)	小児医学 JST資料番号: Z0384B ISSN: 0583-1180	Vol.20, No.3, Page.533-549 (1987.06) 写図表参: 写図3, 表2, 参70	重症心身障害児(重症心身の免疫機能)は, 重症の神経障害より原因の1つと考えられる。PCM患児と重症心身の免疫機能比較をリンパ球機能と成熟に及ぼす栄養素の影響, 長鎖性元素・ビタミン・脂質の免疫機能に及ぼす影響, 重症心身の血清Ig値と分泌型IgA値等について概説
開心術後の合併症 重症弁膜症による栄養吸収障害者の術後経過について 術前IVHを施行した症例と施行していない症例の比較	Clinical evaluation for mitral valve disease with cardiac cachexia—the efficacy of IVH-	大滝正己, 山口明満, 美濃地忠彦, 田村栄熱, 入江利明, 北村信夫 (国立大阪病院)	循環器科 JST資料番号: Y0038A ISSN: 0388-1911	Vol.20, No.6, Page.499-501 (1986.12) 写図表参: 写図2, 表1, 参2	僧帽弁狭窄閉鎖不全症, 三尖弁閉鎖不全症で栄養障害をきたし, いわゆる心性悪液質をきたした5例(男性1, 女性4例, 32-49歳の2例)に術前経中心静脈カテーテル輸液(IVH)を施行し, 3例には施行しなかった。術前IVH施行により全身状態が改善した例では, 人工呼吸器からの離脱が早期にでき, 抜管後も呼吸が安定し, 経口摂取も可能であった。また, 術後組織カタンポリサミンによると思われるBUNの上昇が少なく, 術後早期よりIVHを再開でき, 十分のカロリーを補給し得た。
老人における耐糖能の障害および血しょうビタミンEレベル	Impaired glucose tolerance and plasma levels of vitamin E in geriatric subjects.	BROSCHKE T, PLATT D (Univ. Erlangen-Nuremberg, Nuremberg, DEU)	Nutr Rep Int JST資料番号: E0597A ISSN: 0029-6635	Vol.35, No.3, Page.575-582 (1987.03) 写図表参: 表2, 参17	53名の老人被験者に対し, 各人の通常食のほかにヌガー・グリコーン(45g)を毎日供する栄養試験を行い, 耐糖能, 血中Eレベルへの影響を調べた。血中Eレベルには変動がなかったが, 高脂血を示す対象では増加し, 耐糖能障害者では低下した。血しょう脂質中のビタミンEの増加は対象全員に認められた。
半消化態経腸栄養剤グリニールによる重症脳障害者の長期栄養管理について	Long-term nutritional controls by using enteral nutrition (Clinimeal) to the patients with severely damaged brain diseases.	中谷敏太郎 (中通リハビリ病院)	JIPEN JST資料番号: G0430B ISSN: 0388-127X	Vol.9, Page.61-67 (1987.01) 写図表参: 写図2, 表3, 参4	経口的食摂取不能の中核神経重症度障害者17例(男12例, 女5例, 61-87歳)にグリニール(1200kcal/日)を11-570日(平均360日)間使用。その結果, 全身状態の改善およびその安定的推移(体重増加, 各種感染発生の減少, じく創の治癒)からみて悪性新生物合併の2例を除く15例に本剤の効率が確認された。栄養学的な諸指標の改善につれて, 電解質代謝などが安定化し, 肝や腎機能への影響もみられなかった。1,200kcal/日は過栄養とならなかつた。投与量と投与期間に即した投与量の調整が必要と考察
特製輸液療法, 高カロリー輸液 IV 在宅静脈栄養法	Home parenteral nutrition (HPN).	高木洋治, 岡田正 (大阪大 医)	医学のあゆみ JST資料番号: Z0649A ISSN: 0039-2359 CODEN: ICAYAY	Vol.140, No.5, Page.361-364 (1987.01.31) 写図表参: 写図1, 表4, 参5	在宅静脈栄養法(HPN)に用いられている輸液方法としての人工腸管システムを示し, その携帯用輸液システムと間欠的輸液法の特徴を表にとりまとめた。HPNの実施手順として, 適応の決定, 中心静脈内カテーテル留置を概説した。HPN管理, HPNの現状と問題点についても述べた。小腸機能障害患者の身体障害者福祉法の適用に言及した
長期抗精神病薬療法中の安全性	Safety of long-term antipsychotic therapy.	小椋力 (琉球大 医)	精神神経学雑誌 JST資料番号: Z0692A ISSN: 0033-2658	Vol.88, No.11, Page.960-967 (1986.11) 写図表参: 写図3, 表6, 参23	抗精神病薬療法中の精神障害者300人の各種検査・検査の結果と, それら異常所見の10年後の変化を, 106人(男64人, 女42人, 平均47.9歳, 平均病期23.1年)につき調査。肝機能検査所見ではALP, GOT, ZYに異常を示す者が増え, 心電図所見では特にQTcの延長出現異常の頻著な増加, 眼科的所見では角膜炎・水晶体混濁の増加がみられた。また異常所見と服用薬物と関係, 異常所見出現の相互関係などの結果を述べ, これらの成績をもとに長期抗精神病薬療法の安全性を高めるための留意事項を患者高カロリー輸液(IVH)開架の成績を述べ, 適応症例および高カロリー輸液の不適症例を挙げた。国立がんセンターにおけるIVH液調製の実際を説明した。またIVH液調製に対する保険の取扱いに関する厚生省の指導内容を述べ, 無菌製剤処理の施設基準・無菌製剤処理の概念を説明した。さらに小腸機能障害者に対するIVH液適応に際して, 更生医療の給付が可能になったことを述べた
高カロリー輸液調製の実際 IVH調製の展開と法的背景	Practice of preparation of intravenous hyperalimentation. Development of IVH preparation and legal background.	関口久紀, 佐野倫男 (国立がんセンター)	月刊薬事 JST資料番号: F0634A ISSN: 0016-5980	Vol.28, No.12, Page.2415-2421 (1986.12) 写図表参: 写図6, 表3, 参9	外来通院中のてんかん患児と熱性けいれん児92名, 重症心身障害児施設入院児の62名を対象とし, 抗てんかん薬長期服用時の血中アンモニウム, 血清遊離カルニチンなどを測定した。高アンモニウム血症を呈した症例は神経外来通院児ではアルブロ酸を除く抗てんかん薬群と本剤群では認められ, 本剤を含む多剤群で認められた。重症心身障害児施設入院児では本剤を含む多剤群が高アンモニウム血症を示した
抗てんかん薬, アルブロ酸の長期服用時における高アンモニウム血症に関する研究	A study on valproate-induced hyperammonemia.	小松幹夫, 児玉荘一 (神戸大 医)	神戸大学医学部新紀要 JST資料番号: F0784A ISSN: 0075-6431 CODEN: KDKIKX	Vol.47, No.3, Page.235-241 (1986.09) 写図表参: 写図7, 表2, 参26	入院, 収容の必要はないが, 社会生活上のハンデを持つている児童の通年療養体制確立のため, 肥満児, ぜん息児, 自閉的傾向を持つ児童を対象に, その社会的背景, 問題点を概説し, 日本を含む各国の療養実施例を収集, 分析, 療養活動, 療養体制の現状と問題点を明らかにした。また大阪府内在住の対象児童の保護者へのアンケートと療養事業実施機関に対する訪問面接の調査を行い, これらをもとに療養ネットワーク形成のための条件と療養体制方向モデルを提示した[1983.3]
軽度心身障害児に関する調査研究	Health management -開発センター	健康管理・開発センター	軽度心身障害児に関する調査研究 昭和57年度 JST資料番号: N19860795	Page.292P (1983)	長期に抗てんかん薬治療を受けている精神的な遅滞および身体障害者は高いひび度で薬酸(20%)、リボフラビン(17%)欠乏を示す。以前の食事は栄養的に下個限的であったと考えられ, また糖質を含む多剤食を取ったのではないは述べた。そこで本報では必須栄養素の充分な注意深い食事計画を取りながら, 薬物治療を継続した。1年経過後, 薬酸とリボフラビン欠乏徴候は認められなかった。良好な食事計画でこ
Effect of diet on vitamin deficiencies in retarded individuals receiving drugs.	CIMINO J A, EPEL R, COOPERMAN J M (New York Medical Coll.)	Drug-Nutr Interact JST資料番号: E0989A ISSN: 0272-3530	Vol.3, No.4, Page.201-204 (1985) 写図表参: 表2, 参12		





厚生科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）  
分担研究報告書

障害者(児)の健康・栄養状態に関する実態調査

分担研究者 大和田 浩子 茨城キリスト教大学生生活科学部食物健康科学科 教授

分担研究者 中山 健夫 京都大学大学院医学研究科健康情報学分野 教授

研究要旨

障害者に適切な健康・栄養サービスを提供するためには、障害者の健康・栄養状態に関する課題を明確にし、個別に対応した健康管理や栄養ケアの提供が必要である。しかし、これまで障害者の健康・栄養状態に関する全国的な調査は少なく、障害者の健康・栄養状態の実態は明らかになっていない。そこで本研究では、知的障害者施設の入所及び通所者を対象に、疾病及び死亡状況、栄養状態、食事内容、食行動、栄養管理の実施状況や体制等について把握することを目的に、全国規模の実態調査を行った。対象は、全国の知的障害者(児)施設 1,820 件で、「障害者(児)の健康・栄養状態に関する実態調査」に関する質問票を郵送で依頼した(回収率 71.6%)。その内、有効回答は 1,239 件(有効回答率 68.1%)であった。

主な結果は下記の通りである。

- ① 管理栄養士及び栄養士の配置状況は、施設直営(常勤)で管理栄養士を配置している施設が 369 件(29.8%)、栄養士のみ配置されている施設が 793 件(64.0%)であった。
- ② 利用者の定期健康診断は、年に 2 回以上行っている施設が 902 件(72.8%)であった。
- ③ 身体計測では、身長及び体重計測の実施率は高かった(身長計測の実施率:1,146 件(92.5%)、体重計測の実施率:1,224 件(98.8%))が、上腕三頭筋部皮下脂肪厚及び上腕囲計測の実施率は低かった(上腕三頭筋部皮下脂肪厚計測の実施率:19 件(1.5%)、上腕囲計測の実施率:18 件(1.5%))。
- ④ 利用者の体重の推移(増加や減少)を把握している施設は、1,113 件(96.0%)であった。
- ⑤ 血液生化学検査を実施している施設は、1,094 件(88.3%)であった。
- ⑥ 個人のエネルギー必要量及びたんぱく質必要量の算出には「日本人の食事摂取基準(2005 年版)」を参考にしている施設が多かった(それぞれ、814 件(87.3%)、673 件(95.5%))。
- ⑦ 利用者の食行動で気になっている項目で最も回答が多かったのは、「早食い(嘔まずに飲み込んでしまう)」で 1,081 件(88.2%)であった。
- ⑧ 提供している特別食で最も回答が多かったのは、「糖尿病食」で 758 件(61.2%)、把握している疾患で最も回答が多かったのは、「高血圧」で 824 件(66.4%)であった。
- ⑨ この1年間における死亡率は、男性で 211 名(60.8%)、女性で 136 名(39.2%)と、女性に比べて男性の死亡率の方が高かった。年齢階級別にみると、総数、男性及び女性のいずれにおいても 50～59 歳の死亡率が最も高かった(総数:100 人、28.8%、男性:56 人、16.1%、女性:44 人、12.7%)。
- ⑩ 栄養ケア・マネジメントについては、「知っていて、行っている」と回答した施設が 161 件(13.0%)であった。
- ⑪ 管理栄養士が栄養ケア・マネジメントの推進上の課題と感じていることで最も回答が多かったのは、「食事の個別化」で 412 件(40.9%)であった。

## A. 研究目的

2006年4月の障害者自立支援法の施行により、障害者への各種サービス体系の見直しが行われている。障害者に適切な健康・栄養サービスを提供するためには、障害者の健康・栄養状態に関する課題を明確にし、個別に対応した健康管理や栄養ケアの提供が必要である。しかし、これまで障害者の健康・栄養状態に関する全国的な調査は少なく、障害者の健康・栄養状態の実態は明らかになっていない。障害者の健康・栄養状態を考える場合、障害の程度や疾病像の違い、過栄養や低栄養などの状況の出現や嚥下・咀嚼機能の低下などが想定される。従って、個別にその状態を把握し、食事や栄養ケアを提供することが障害者の健康の増進、QOLの向上を図る上で緊急の課題であるといえる。

そこで本研究では、障害者に対するサービス提供現場における実態調査を行い、施設入所及び通所者の身体計測及び血液生化学検査の実施状況、疾病及び死亡の状況、過栄養や低栄養の状態の出現状況、食行動の状況、栄養管理の実施状況や体制等について把握することを目的に実態調査を行った。

## B. 方法

全国知的障害者関係施設名簿2004・2005年度版に掲載されている知的障害者(児)施設のうち、原則として定員50名以上の施設1,820件に「障害者(児)の健康・栄養状態に関する実態調査」に関する質問票を郵送で依頼した。調査票の記入者は、原則として常勤の管理栄養士または栄養士とした。

### 倫理的配慮

本調査は茨城キリスト教大学の倫理委員会の承認(承認番号:06-5)を得て実施した。

## C. 結果

### 1. 調査票の回収状況

回収された調査票は1,303件(回収率71.6%)であった。その内、管理栄養士及び栄養士が配置されていないため、回答が不可能であった施設は64件であった。有効回答は1,239件(有効回答率68.1%)であった。原則として、同施設で2つ以上の事業を行っている場合、施設数は1件とした。

### 2. 施設の概要

#### 1)施設の種類

施設の種類は、知的障害者更正施設が最も多く775件(66.1%)、続いて知的障害者通所授産施設132件(11.3%)、知的障害者授産施設130件(11.1%)であった。回答施設1,173件のうち、複数回答であった施設は99施設(8.4%)であった(表1)。

#### 2)回答者の職種

回答者の職種は、栄養士が775件(62.6%)、管理栄養士が357件(28.8%)であり、栄養士の回答割合が管理栄養士の約2倍であった(表2)。

#### 3)入所及び通所施設の年齢階級別利用者数

入所施設の利用者数をみると、総数66,994人、男性39,497人、女性27,318人であった。年齢階級別の分布をみると、総数と男性では30歳代の利用者が最も多く(それぞれ16,553人、10,937人)、女性では、50歳代の利用者が最も多かった(6,564人)。総数の年齢階級別利用者数の最頻値をみると、総数のみが50人で、19歳以下から70以上のすべての階級で0人であった。男性及び女性の年齢階級別利用者数の最頻値をみると、総数及び全ての年齢階級で0人であった(表3-1)。

通所施設の利用者数は、総数19,038人、男性11,216人、女性7,095人であった。年齢階級